

中国における大学生の進路発達過程に関する研究
—進路選択に対する自己効力感、結果期待と職業興味の役割—

平成 18 年 度

鄭 麗 芳

中国における大学生の進路発達過程に関する研究

—進路選択に対する自己効力感、結果期待と職業興味の影響—

三重大学 教育学研究科 学校教育専攻
205M010 鄭麗芳

平成 19 年 2 月 13 日提出

目 次

はじめに	1
第一章 中国における大学教育の現状	
一 大学における改革	3
1 管理体制の改革	3
2 就職制度の改革	3
3 規模拡大	3
二. 改革による問題点	4
第二章 社会・認知的進路理論に関する先行研究	
一、進路選択に対する自己効力感について	5
二、結果期待について	5
三、職業興味について	5
四、中国における進路選択過程に関する研究	6
五、本研究の目的	7
第三章 方法	
一、調査対象	8
二、調査時期	8
三、調査実施状況	8
四、質問紙の構成	9
第四章 結果と考察	
一、尺度項目の分析	11
二、男女別の相関	18
三、因子得点による男女差	19
四、因子得点による学年差	20
五、自己効力感尺度・結果期待尺度・職業志向尺度と職業興味尺度の関連	22
六、専攻別にみた職業興味の特徴	31
七、職業志向と職業興味の関連	32
八、家庭の要因と職業興味との関係	33
総合考察	35
今後の課題	36
引用・参考文献	39

はじめに

中国においては、1990年代に入ってから、経済の発展により、社会全体の高度な技術者及び高度な専門職への需要が急速に上がり、大学への要請が次第に高まるようになってきた。この状況の下、政府は1998年に大学教育の拡大政策を打ち出した。進学率は1998年の9.8%から、2003年17%まで上昇している。進学率の上昇により、2001年以来大学卒業者の数も毎年27%ずつ増加を続け、2006年までの5年間でその数は3倍となった。しかし、卒業生が年々増加している中、就職状況も厳しくなっている。国家发展改革委員会が発表した「2006年大学卒業生の就職指導書」によれば、1990年代後半、大学生の就職率が90%を超えていたが、2006年が、就職率は70%にしか達していなかった。

大学生がスムーズに就職できるように、政府の指導のもとに、2000年頃から、各大学は、「就職指導課」を設置し、それを中心とする就職支援活動を行っている。しかし、現実には、その指導活動は採用情報の提示や面接の対策のような活動にとどまり、職業選択に対する個人の能力や興味と職業の関連づけを促すような心理的な指導や介入の支援もほとんど行わなかった。そのため、大学生を取り巻く進路選択が社会問題になっている。

Lent、Brown & Hackett (1994) は、Bandura (1986) の社会的認知理論 (Social Cognitive Theory) を進路関連領域に適用し、社会・認知的進路理論 (Social Cognitive Career Theory : SCCT) を展開した。その後、同理論のもとで様々な研究が行われている。例えば、浦上(1996)によると、進路選択に対する自己効力の強い者は、進路選択の行動を活発の行い、努力もする。また、効力感が高く価値の具現化につながる。一方、進路決定効力感の低いものは、たとえそれが人生の目的を達成するために必要なものと理解していても進路選択行動を避けてしまふと考えられる。また、安達(2003)は日本人の職業興味形成について、自己効力感とともに結果期待が大きな影響を与えていることを明らかにした。そして、安達(2003)が、SCCTでは、効力感と結果期待の認知が進路選択のプロセスにおいて中心的な役割を果たすと指摘している。

海外と比べて、中国国内では、社会・認知的進路理論 (Lent、Brown & Hackett 1994) に関する実証的な研究データがまだ少ない。しかし、大学生の進路発達過程を解明するために、たくさんの実証研究が不可欠である。そこで、本研究は、Lent、Brown & Hackett (1994) 社会・認知的進路理論にもとづく、中国の大学生に研究対象として、その進路発達過程について考察する。以下、第一章では、中国における大学の現状について、教育体制の改革、大学生の就職状況、大学側の支援体制から考察する。第二章では、社会認知的進路理論に関

する先行研究の整理を踏した上で、本論文の研究目的を説明する。第三章は、調査方法、結果及び考察である。

第1章 中国における大学教育の現状

中国においては、1992年の頃から大学の教育改革が始まった。その改革が主に三つがある。一つ目は管理体制の改革、二つ目は就職制度の改革、三つ目は規模の拡大である（周2005）。

一 大学における改革

1 管理体制の改革

従来、中国の大学の設置は、教育部が直接管理する大学のほか、各中央官庁が設置した大学及び省・自治区などの地方政府が所管する大学が並存していた。1994年頃からの中央省庁の再編をきっかけとして、政府は大学を合併・再編した。また、1995年から、大学の法人化も始まった。大学も一般企業と同じく法人格を持つことになってきた。人事、財務権の独立により、大学と社会、大学と企業の連携は広がっている。そのため、政府の財政投入以外にも多種の経費調達ルートが形成された。つまり、市場原理が大学に導入されるようになってきた。

2 就職制度の改革

大学生の就職制度については、計画経済の時期に、大学に進学すれば就職が保障されていた。卒業生は国が配属を行い、公務員として扱っていた。しかし、1997年以後、新たな就職制度が作られ、それは「就職先を自分で探す」という「自主的職業選択」制度である。大学生が就職活動を通じて、就職先を自主的に決めるようになってきた。一方、大学生の就職活動を支援するために、2000年頃から、各大学は、「就職指導課」を設置し、企業情報の提供、人材招聘会の開催や開催情報の提供、面接対策等の支援活動を行っている。大学内の就職活動支援部門における現状としては、大きく三種類に分けられる。

3 規模拡大

外資系企業の進出、WTOの加盟などにより、社会全体の高度な技術者及び高度な専門職への需要が急速に上げている。この背景のなか、政府は1996年に「教育発展に関する行動綱要」を制定し、大学教育の拡大政策を打ち出した。その結果、大学に進学の進学率は1998年の9.8%から、2003年17%まで上昇している。在学者数は1998年の340.9万人から2003年の1108.6万人に増加した。進学率の上昇により、2001年以降、大学卒業者の数も年々増え、2005年にはその数が340万人に達した。

二 改革による問題点

これまでの改革により、中国の大学教育は急速に発展してきた。しかし、発展により新たな問題も出来た。そのなかに最も注目されたのは大学生の就職問題である。同問題は2006年に開催された全国人民代表大会（日本の国会相当）にも取り上げた。

大学生の就職の現状に関して、北京大学公共政策研究所が、2006年3月、大学生の就職実態を把握するために、四年制大学卒業生約6,000人を対象として、アンケート調査を実施し、結果は次のとおりであった。「就職先が決まっている」と回答した人は49.8%、「就職先が決まっていない」は27.3%、「すぐに就職かどうか決めていない」が12%であった。同研究所の分析によれば、このような職業が定められない背景には、大学生の職業に対する意識や態度の変容にもある。調査対象の中に、「卒業するのでとりあえず」、「卒業だから仕方なく」といったかたちで社会へ踏み出すことに対して受身の考え方をする者が多く見られる。将来についての問に対して「何にか楽しいことをしてみたい」、「自分にあったものを探そうと思うのだけど」と、漠然としたかたちでしか答えられない者も見られる。また、自己理解が未熟なまま、「映画を見るのが好きだから芸能界に」といった発想で好きなものと仕事を結びつける者も少なくない。このような大きな流れのなかにある大学では、より効果がある支援体制はこれまで以上に必要であることを認識し、支援体制改善への取り組みが進んでおり、新しい支援体制の在り方が模索されている。

第2章 社会認知的進路理論に関する先行研究

一 進路選択に対する自己効力について

Hacket & Betz (1981) は、自己効力感を進路領域に適用し、進路に対する自己効力 (Career Self-Efficacy : CSE) として概念化した。進路選択のプロセスに焦点をあてたのが進路選択過程に対する自己効力感 (Career Decision-Making Self-Efficacy : CDMSE) で、情報探索、計画立案、問題解決など進路選択に必要な行動にどの程度自信をもつかが問題とされている。

浦上 (1994) は、Taylor & Betz (1983) の CDMSE を参考に、進路選択に対する自己効力尺度を作成した。彼らの研究によると、進路選択過程に対する自己効力の高い者ほど、より就職内定先の決定率が高いということである。また、この効力の高い者の方が、自分の望んでいたもの、または納得できるものに就職が決定していることを明らかにした。

二 結果期待について

社会的認知理論では、自己効力感と結果期待の双方が興味の形成や目標設定、それに続く行動に対して影響を及ぼすと考える。自己効力感が課題遂行能力に関する自己評価であるのに対して、結果期待は、行動をおこした結果に対する予測である。Hacket & Betz (1981) は結果期待について「ある課題を遂行した結果に対する個人の予測」と定義され、物理的結果、社会的結果、自己満足である自己評価的結果の3つに大別される。そして、Bandura (1986) は、このうち自己評価的結果について興味の発達にとって中心的な役割を果たすと指摘している。したがって、自己満足感が得られる予期が、職業活動に対する興味を内発し、職業活動に対する熱意や能力の向上をもたらすのである。

三 職業興味について

社会・認知的進路理論における職業興味は、(Hansen, 1984) が、「職業や進路に関連する課題への好き、嫌い、無関心といった個人に独特のパターン」をさす。児童期から青年期にかけて人は様々な活動を経験し、それぞれに関して、両親や仲間など周囲の人間から強化を受ける。進路発達のプロセスは、生涯を通じて繰り返されるが、青年後期あるいは成人前期までの期間、とくに活発化し、興味の形成を促す (Hansen, 1984)。どのようなタイプの職業に興味があるかは、職業選択の上でもっとも重要なポイントの1つである。大学生を対象として職業情報の検索過程を調べた室山 (1997) は、自己の職業興味につい

て情報を与えられない者よりも、情報検索の効率性が高いことを見出している。また、自己の能力や興味について理解を深めることが、成熟した職業決定に必要であることと指摘された（Super、1957）。こうしたことから、職業興味は、職業選択活動や職業決定を規定する重要な変数と言える。また、室山（1997）は職業に対する情報の理解が不足する大学生について、「それぞれの職業がどのような活動要素で構成されるかを把握することが難しく、活動について能力や自信を備えていても、それらが職業興味へ繋がるわけではない」と指摘される。

Hansen によれば、進路発達のプロセスは、生涯を通じて繰り返されるが、青年後期あるいは成人前期までの期間、とくに活発化し、興味の形成を促す（Hansen、1984）。一旦興味が確立されると、効力感や期待を新たに書き換えるような経験がない限り、基本的な興味パターンは容易に変容しない。しかし興味確立後に、効力感や期待の幅を広げるような新たな体験を経ることで興味の幅はさらに広がるだろう。仕事場面では、業務内容、地位、技術の変化によって全く新たな、あるいは眠っていた興味の発達が促されることもある。逆に、Brown & Lent（1996）は、活動経験が制限されてきたため、効力感や結果期待の発達が十分でない場合、興味の範囲が狭められることを指摘している。もちろん、才能や素質も興味の形成にとって欠かせない要因である。しかし SCCT では、能力や素質が興味の形成に直接関わるのではなく、興味に対する影響の多くの部分が効力感に媒介されると考える。何故ならば、人は、実際の能力水準に基づき興味を形成するのではなく、自己の能力に対する主観的知覚に基づき興味を形成する。

四 中国における進路選択過程に関する研究

中国国内では、社会・認知的進路理論（Lent、Brown & Hackett 1994）に関する研究がまだ少ない。その中でも代表的なのは白・方、李の二つの研究グループである。白・方（1996）は、現代中国の大学生の職業興味に対応するよう、Holland（1970、1973）の職業興味目録（Vocational Preference Inventory; VPI）を参考し、中国版職業興味測度を開発した。また、方（1996）の調査研究によると、大学生の多くが、将来の進路について展望がもてずに、意思決定を先に延ばし、自己についても、職業についても十分な考慮をしないまま進路選択をしているため、職場不適応、離転職などの不適応現象を起こしていると指摘されている。そして、方（2002）が、大学生を取り巻く就職環境がよく変わるにもかかわらず、指導において自己効力を高めることができると述べている。すなわち、自己効力感が高まれば、それにとまって職業選択における行動の変容が期待できるのである。

一方、李（1998）は北京の4つの大学の大学生を対象に4年間の縦断調査を行い、大学4年間それぞれの就職意識を比較した。その研究では、社会的な就職状況は大学1、2年生の就職意識にあまり影響を及ぼしていないが、大学4年生には大きな影響を与えていることを明らかにした。また、李（2000）が卒業した学生を対象にした調査し、在学中に進路選択過程に対する自己効力が高かった者は、それが低かった者より、高い仕事意欲をもっていると報告している。そして、沈・李ら（2002）の研究では、進路選択過程に対する自己効力が高い者ほど、友人、先輩及び家族からの情報の活用が活発化する傾向にあることが報告されている。

五 研究の目的

中国が地域の差、民族の差、経済の格差など著しく存在している。したがって、大学生の進路発達過程を解明するために、より多くの実証研究が必要である。そこで、本研究は、中国の大学生に研究対象として、Lent、Brown & Hackett（1994）社会・認知的進路理論にもとづく、進路選択に対する自己効力感、結果期待、職業興味と職業志向性の変数を用いて、学年別と男女別の違いを明らかにし、進路選択に対する自己効力感、結果期待が職業興味に及ぼす影響について検討することを第1の目的とする。また専攻分野は職業興味と一定の関係にあるかどうかを考察する。そして、職業興味が両親の学歴・職業といったデモグラフィック要因とどのような関係にあるかを検討することを本研究における第2の目的とする。今日の中国における大学就職指導支援体制改善への取り組みに対して、基礎的な情報や資料の一助となるだろう。

第三章 方 法

一、調査対象

大学生の職業選択は大学での専攻と深く関わっており、専攻同じ学生は類似した職業選択を示す傾向にあることが既に明らかになっている。そこで、本研究ではできるだけ多様な専攻分野の学生を対象として調査を実施する。

調査対象は、中国江蘇省下の4年制J大学に在籍する大学生300名であり、有効回答数は284名男性150名、女性134名)、回収率は94.7%であった。全調査対象の平均年齢は20.5歳(SD=1.17)であった。

学年は一年生69名、二年生130名、三年生10名、四年生75名であった。専攻別に見た被調査者の内訳は(Table1)に示すとおりである。

Table1 被調査者の内訳

専 攻	人 数
1 計算機 (情報工学)	50
2 教師教育	36
3 機械工学	53
4 外国語学院	31
5 能動学院(建築環境)	34
6 会計 財経	33
7 材料科学(金属、分子素材)	23
8 医学技術学院 (医学検験)	18
9 人文学科	6
合計	284

二、調査時期：

調査は、質問紙法により2006年9月18日から29日にかけて。

三、調査実施状況：

大学の講義時間を利用して回答を依頼し、無記名方式により実施した。質問紙の回答に要した時間はやく15分程度であった。

四、質問紙の構成：

1 フェイス項目：学部、学年、性別、年齢をたずねる4項目で構成された。

2 進路選択に対する自己効力感尺度(Career Decision-Making Self-Efficacy Scale)：

Taylor & Betz (1983)、古市(1995)、浦上(1995)、富安(1997)を参照し、自己適性評価、職業情報の収集、目標設定、計画立案、問題解決に関する自己効力感について、25項目を設定した。回答は「非常に自信がある」「少し自信がある」「あまり自信がない」「まったく自信がない」の4段階法で測定。

3 進路選択に対する結果期待尺度：

安達は邦訳したBetz & Vuyten (1996)の4項目を使用。回答は「非常によく当てはまる」「少し当てはまる」「あまり当てはまる」「全く当てはまらない」の4段階法で測定。

4 職務内容による職業興味尺度：

Holland (1970、1973)の職業興味目録(Vocational Preference Inventory;VPI)、若林・和田ら(1986)、白利剛・方利洛(1996)を参考にして、中国の職場や組織に合致した職業が選ばれた。事務職、商業美術職、販売・現業職、教育職、語学職、マスコミ職の6領域を設定し、45項目の具体的な職業内容に対して、「非常に興味がある」「少し興味がある」「あまり興味がない」「まったく興味がない」の4段階法で、興味の程度を測定する。

5 職業志向尺度：

職業選択と関連するとして職業志向をとりあげた。若林ら(1984)で作成された尺度の短縮版が用いられた。職業志向とは、職業や仕事に何をもとめるかという、仕事の条件やその結果に対する期待や好みことである。本研究は中国での就職や仕事における重要な条件として、学生たちが志向しそうな15項目が選定した。これらの項目は、いわゆる労働条件(給与、通勤、休日、職場環境など)から、人間関係(同僚、職場の雰囲気など)および仕事のやりがい(専門性、複雑性、創造性を発揮する機会など)にまたがる、多様な内容を含んでいる。

回答者はそれぞれの項目に対し、自分がつきたいと望んでいる職業には、それがどの程度そなわっていて欲しいと思うかを、「非常にたくさんあってほしい」「かなりたくさんあってほしい」「普通以上にあってほしい」「普通にあってほしい」「普通以下でよい」の5段階法で測定。

6 その他の質問項目：

本研究では以上の質問項目の他に、父母の学歴と職業に関する質問項目を設け、情報を得た。

ただし、本調査は中国の大学生を対象に、中国にて行われるため、中国語訳文としての概念の妥当性、本文との一致性については、本調査実施する中国 J 大学の外国語学部の日本語を専門とする二人教授によって確認を受けた。

具体的な手順は、まず、日本版質問紙が日本語を専門とする教授の一人に中国語に訳してもらい、次に、翻訳した中国語訳文質問項目を日本語専門のもう一人の教授に再び日本語に訳してもらう。ニュアンスが一致するかどうかを検討して、中国語の尺度を作成した。

第四章 結果と考察

一、尺度項目の分析

本調査は中国の大学生を対象に、中国にて行われるため、翻訳された各尺度については、下位構造を再確認するため、各尺度に対して因子分析を行い、あらためて信頼性（ α 係数）を検討した。

1. 進路選択に対する自己効力感尺度

各項目への回答は肯定的なほうから4点、3点、2点、1点を与えて得点化し、25項目の質問項目を用いて因子分析を行った。因子の抽出には、主因子法を用いた。因子数は固有値1以上の基準を設け、さらに因子の解釈の可能性も考慮して5因子とし、Varimax回転を行った。この結果において、各因子の因子負荷量が.30を下回る3項目を除外し、22項目を残した。これら22項目に関して、再び、主因子法により5因子を抽出し、Varimax回転を行った。その結果をTable2に示した。

第1因子は、「関心のある職業に就いている人から仕事について話を聴く」、「現在の中国の求人動向を把握する」「新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどを利用して職業情報を集める」などの項目に負荷量が高いことから「情報収集」と命名した。第2因子は、「自分が最も適している職業領域を確立する」、「自分の興味にあった職業を選択する」「志望職業の実現に向けて就職活動の計画を念入りにたてる」などの項目に負荷量が高いことから「目標設定」と命名した。第3因子は、「志望職業に就くために試験や面接が上手くいかなくても再度チャレンジする」、「志望職業に両親や友人が反対しても、説得して理解を得る」、「例え長い時間や労力がかかっても、将来の職業のためになるなら知識や技術を身に付ける」などの項目に負荷量が高いことから「問題解決」と命名した。第4因子は、「将来の職業のために在学中やっておくべきことの計画を立てる」、「将来の仕事において役立つと思われる免許・資格取得の計画を立てる」などの項目に負荷量が高いことから「計画立案」と命名した。第5因子は、「自分がどのような職業分野に向いているかを理解する」、「自分の性格や興味を正確に判断する」などの項目に負荷量が高いことから「適性評価」と命名した。

Table2 進路選択に対する自己効力感尺度の因子分析結果 (Varimax 回転後の因子パターン)

項目内容	I	II	III	IV	V	共通性
24. 関心のある職業に就いている人から仕事について話を聴く	.718	.016	.113	-.061	-.020	.552
25. 現在の中国の求人動向を把握する	.692	-.020	-.101	.014	.015	.436
23. 興味ある組織では、どの様な材を必要としているのかを調べる	.684	.177	-.013	-.054	-.147	.485
21. 新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどを利用して職業情報を集める	.654	-.167	.034	-.029	.090	.393
22. 就きたい職業に必要な資格・免許・技術などについて調べる	.614	-.189	.025	.250	.075	.505
20. 自分の将来の目標と、これまでの経験を関連させて考える	.389	.239	-.148	.006	.164	.350
4. 自分の興味にあった職業を選択する	-.126	.727	.088	-.076	.014	.465
3. 自分が最も適している職業領域を確立する	-.071	.575	-.049	.088	.089	.382
2. 職業生活で何を重要視するかを明確にする	.216	.425	.011	.093	-.098	.348
14. 志望職業の実現に向けて就職活動の計画を念入りにたてる	.190	.330	-.038	.269	-.050	.378
15. 職業計画に無理が生じた場合、柔軟に計画を修正できるようにしておく	.293	.326	.141	-.080	-.019	.324
9. 時間や労力がかかっても、職業のためになるなら知識や技術を身に付ける	-.075	-.136	.641	.257	.031	.485
8. 志望職業に両親や友人が反対しても、説得して理解を得る	.076	-.111	.502	-.003	.035	.248
6. 失敗や挫折があっても希望する職業に就くために努力を続ける	-.119	.349	.486	-.068	.072	.451
7. 志望職業に就くために試験や面接が上手くいかなくても再度チャレンジする	-.026	.247	.395	.002	.139	.391
10. 好きな仕事に就くためなら遠近や地域を問わず、どこでも移動する	.081	.170	.323	.004	-.197	.180
12. 将来の仕事において役立つと思われる免許・資格取得の計画を立てる	.029	-.108	.090	.660	.138	.515
11. 将来の職業のために在学中やっておくべきことの計画を立てる	-.019	.142	.096	.657	-.181	.539
13. 人生の目標を明らかにし、それに従って職業計画を組み立てる	-.029	.337	-.024	.504	.031	.549
18. 自分の性格や興味を正確に判断する	-.015	.002	.060	-.026	.794	.643
19. 自分の適性や能力を正確に把握する	.242	.068	.140	-.129	.537	.541
17. 自分がどのような職業分野に向いているかを理解する	-.103	.381	-.221	.138	.442	.429
因子寄与	4.766	5.127	3.607	4.110	3.381	

削除されたのは以下の3項目である。

項目 1. 将来の職業を決定し、その後は職業選択について悩まない

項目 5. 人と接触を主とするのか、主に物や情報を扱う職業に就くのかを決定する

項目 16. 将来、どのような人生を送りたいかを明確にする

進路選択に対する自己効力感尺度の下位尺度間の相関と下位尺度の信頼性を Table2 示した。相関係数は全体に正の高い値であり、全ての組み合わせにおいて有意な値を得ている。各下位尺度間の関連はいずれも比較的強い ($r = .37$ ($p < .001$) $\sim r = .57$ ($p < .001$))。内的整合性を検討するため各下位尺度の α 係数

を算出したところ、情報収集 $\alpha = .81$ 、目標設定 $\alpha = .72$ 、問題解決 $\alpha = .67$ 、計画立案 $\alpha = .75$ 、適性評価 $\alpha = .70$ である。問題解決でやや低いが、他は .70 以上と十分な値が得られた。尺度の内部整合性も満足すべきものであった。

Table2 進路選択に対する自己効力感尺度の下位尺度間相関と平均、SD、 α 係数

	情報収集	目標設定	問題解決	計画立案	適性評価	平均	SD	α
情報収集	—	.51 ***	.37 ***	.42 ***	.46 ***	2.99	0.55	.81
目標設定		—	.51 ***	.57 ***	.50 ***	2.84	0.55	.72
問題解決			—	.47 ***	.39 ***	3.12	0.53	.67
計画立案				—	.39 ***	2.86	0.63	.75
適性評価					—	3.12	0.58	.70

*** $p < .001$

2. 進路選択に対する結果期待尺度

4 項目を用いて主因子法による因子分析を行い、1 因子構造を確認した。信頼性係数 $\alpha = .60$ 得られた。その結果を Table3 に示した。

Table3 結果期待尺度の因子分析結果

項目内容	I	共通性
1. 仕事について勉強すれば、よりよい職業選択が出来る	.579	.335
4. 時間をかけて職業情報の収集を行えば、よりよい職業選択に何か必要なのか分かる	.555	.184
3. 仕事でどのような知識や技術が必要となるのか分かっていれば、よりよい職業選択できる	.512	.263
2. 自分の興味や能力を理解すれば、よりよい職業選択ができる	.429	.308
因子寄与		1.090
因子寄与率		27.261

3. 職務内容による職業興味尺度

各項目への回答は肯定的なほうから 4 点、3 点、2 点、1 点を与えて得点化し、45 項目の質問項目を用いて因子分析を行なった。因子の抽出には、主因子法を用いた。因子数は固有値 1 以上の基準を設け、さらに因子の解釈の可能性も考慮して 6 因子とし、Varimax 回転を行なった。その結果を Table4 に示した。

第 1 因子は、「広告のための絵や文字をデザインする」、「商品の色や形をデザインする」「商品の色や形をデザインする」、「家具や照明器具のデザインや室内装飾」などの項目に負荷量が高いことから「商業美術職」と命名した。第 2 因子は、「海外からの旅行客

を観光案内する」、「海外旅行に同行し、旅行客の世話をする」、「外国人管理職の秘書業務」などの項目に負荷量が高いことから「語学職」と命名した。第3因子は、「電気製品の修理や配線の仕事」、「車を点検したり、修理する」、「自動車を販売する」、「商品を仕入れたり、買い付ける」などの項目に負荷量が高いことから「現業・販売職」と命名した。第4因子は、「事件取材したり、報道記事を書く」、「社会事象について評論を書く」、「ラジオやレコード音楽を紹介しながら話をする」などの項目に負荷量が高いことから「マスコミ職」と命名した。第5因子は、「商店や会社の会計書類を作成したり、会計上の相談に応じる」、「市役所・区役所などの事務処理」、「民間企業での事務処理や書類の作成」などの項目に負荷量が高いことから「事務職」と命名した。第6因子は、「中学・高校で専門の教科を教える」、「小さい子どものお世話をしたり、教育を行う」、「施設の子供達の世話をする」、「悩みごとの相談に応じたり、指導する」などの項目に負荷量が高いことから「教育職」と命名した。

ただし、項目7の「保険を勧誘したり、集金する」と項目36の「外国人に中国語を教える」（*印のついたもの）は、負荷量が.30以下、十分な因子負荷量を示さなかったため、以後の分析から除外した。

Table5は、職業興味尺度の下位尺度間相関と下位尺度の信頼性を示したものである。尺度の相関係数を算出したところ、商業美術職、マスコミと語学職、事務職、教育職は互いに中程度（ $r=.35$ （ $p<.001$ ）～ $.51$ （ $p<.001$ ））の相関関係にあった。現業・販売職、事務職、教育職の間にそれぞれ $r=.20$ （ $p<.001$ ）、 $r=.21$ （ $p<.001$ ）という有意な低い相関がみとめられ、語学職と現業・販売職との間に有意な相関は得られなかった。内的整合性を検討するため各下位尺度の α 係数を算出したところ、商業美術職 $\alpha=.83$ 、語学職 $\alpha=.82$ 、現業・販売職 $\alpha=.81$ 、マスコミ職 $\alpha=.66$ 、事務職で $\alpha=.68$ 、教育職 $\alpha=.72$ である。マスコミ職と事務職でやや低い他は.72以上と十分な値が得られた。尺度の内部整合性も満足すべきものであった。

Table4 職業興味尺度の因子分析結果 (Varimax 回転後の因子パターン)

項目内容	I	II	III	IV	V	VI	共通性
41. 広告のための絵や文字をデザインする	.620	.106	.211	.000	.203	-.003	.481
32. 商品の色や形をデザインする	.612	.179	.352	-.078	.169	-.178	.597
15. 芸術的な絵を描く	.595	.114	.062	.183	-.018	.160	.431
10. 洋服をデザインしたり、仕立てる	.577	.240	-.041	.150	.017	.265	.485
2. 家具や照明器具のデザインや室内装飾	.551	.097	.124	.112	.081	.169	.376
28. 商業写真を撮る	.546	.316	.099	.064	.282	.045	.494
8. 雑誌や本を企画し、編集する	.529	.068	-.052	.268	.081	.256	.431
38. 演劇や映画などの脚本を書く	.409	.120	.097	.348	-.002	.106	.324
21. 海外からの旅行者を観光案内する	.110	.774	-.009	.151	.020	.121	.650
33. 海外旅行に同行し、旅行者の世話をする	.196	.729	-.050	.170	.076	.041	.608
43. 観光地で名所、旧跡などを案内する	.170	.711	-.034	.138	.089	.168	.590
45. 国際線の機内で旅客を接待する	.091	.469	-.081	.157	.292	.147	.366
22. 店でCDブランド服を紹介する	.160	.457	.087	.197	.287	.034	.365
25. テレビのニュース番組を担当する	.268	.438	-.043	.409	.164	.035	.461
44. 外国人管理職の秘書業務	.070	.357	-.244	.158	.357	.204	.386
17. 旅行社で旅行を企画し、実施する	.312	.353	.129	.003	.304	-.006	.331
20. 電気製品の修理や配線の仕事	.055	-.033	.804	.104	.015	.047	.664
13. 車を点検したり、修理する	.021	-.012	.768	.094	-.053	.072	.607
39. 工場で機械を操作したり、製品をつくる	.055	-.098	.623	.027	.071	.048	.408
35. 自動車を販売する	.047	.155	.569	.078	.088	-.016	.364
42. コンピューターによる情報システムの設計	.289	-.111	.560	-.106	.169	-.086	.457
31. コンピュータのプログラムを作る	.270	-.179	.500	-.106	.174	-.069	.401
24. 商品を仕入れたり、買い付ける	.141	.294	.405	.056	.252	.134	.355
14. 専門分野の研究をしたり、専門的知識を教え	-.034	-.019	.320	.049	.113	.314	.217
4. 事件取材したり、報道記事を書く	.094	.189	.056	.661	.001	.007	.485
3. 国際会議で演説などを即座に通訳する	-.020	.254	.016	.571	.013	.080	.398
34. ラジオ、テレビ番組での司会	.248	.426	.039	.512	.036	-.028	.508
19. 社会事象について評論を書く	.265	.126	.020	.473	.101	.126	.337
5. 法律に関する書類を作成する	-.050	.066	.098	.473	.291	.250	.388
6. 外国の小説、文献などを中国語に訳す	.093	-.007	.066	.459	.121	.288	.321
12. 文学作品を書く	.318	-.065	.212	.401	-.025	.271	.385
29. ラジオやレコード音楽を紹介しながら話をする	.388	.259	-.055	.396	.014	-.007	.378
26. 銀行での預金や貸付業務	.067	.097	.056	.008	.595	.043	.373
37. 会計書類を作成、会計上の相談	.062	.054	.171	.045	.588	.075	.390
40. 海外取引引きや金融の仕事	.149	.197	.202	-.034	.569	-.077	.433
23. 税金に関する書類を作成、税務上の相談	.056	.119	.269	.107	.451	.133	.365
16. 市役所・区役所などの事務処理	.093	.024	-.162	.254	.435	.353	.414
1. 民間企業での事務処理や書類の作成	.065	-.028	-.135	.251	.374	.373	.365
* 7. 保険を勧誘したり、集金する	.246	.139	.166	.208	.255	.176	.246
11. 中学・高校で専門の教科を教える	-.019	.178	.103	.166	-.060	.674	.527
27. 小さい子どものお世話をしたり、教育を行う	.256	.312	.103	.004	.092	.578	.515
9. 図書の目録を作ったり、書架を整理する	.204	-.093	.006	.190	.226	.521	.409
18. 施設の子供達の世話をする	.288	.234	-.025	.009	.143	.478	.388
30. 悩みごとの相談に応じたり、指導する	.259	.260	.047	.132	-.018	.324	.259
* 36. 外国人に中国語を教える	.095	.295	-.135	.295	.049	.298	.293
因子寄与	3.746	3.722	3.412	3.008	2.562	2.534	
因子寄与率	8.324	8.270	7.581	6.685	5.693	5.630	

Table5 職業興味尺度の下位尺度間相関と平均、SD、 α 係数

	商業美術職	語学職	現業・販売職	マスコミ職	事務職	教育職	平均	SD	α
商業美術職	—	.48 ***	.32 ***	.51 ***	.35 ***	.41 ***	2.46	0.66	.83
語学職		—	.10	.50 ***	.44 ***	.36 ***	2.72	0.70	.82
現業・販売職			—	.16 **	.20 ***	.21 ***	2.30	0.70	.81
マスコミ職				—	.38 ***	.43 ***	2.27	0.59	.66
事務職					—	.39 ***	2.55	0.59	.68
教育職						—	2.47	0.62	.72

** $p < .01$ *** $p < .001$

4. 職業志向尺度

25 項目の質問項目を用いて因子分析を行なった。因子の抽出には、最尤法を用いた。因子数は固有値 1 以上の基準を設け、さらに因子の解釈の可能性も考慮して 5 因子とし、Prom ax 回転を行なった。その結果を Table6 に示した。

第 1 因子は、「みんなから、慕われ尊敬されること」、「親切で、思いやりのある人間関係を作り上げる機会」など、人間関係を求める傾向を意味する内容の項目に高い負荷量を示していた、そこで「人間関係」と命名した。第 2 因子は、「困難な仕事へ挑戦したり、責任ある仕事がまかされる機会」、「最先端の技術や情報に接し、それらを実用化すること」など、仕事のやりがいや重要性を大切にし、困難な職務に挑戦して自己の能力を発揮したり、それを通じて自分が成長することを求める傾向を意味する内容の項目に高い負荷量を示していた、そこで「職務挑戦」と命名した。第 3 因子は、「職場の環境が快適で、厚生施設が充実していること」、「勤務先への通勤が便利であること」、「高い給与やボーナスをうる機会」など、仕事の上での外在的条件を求める傾向を意味する内容の項目に高い負荷量を示していた、そこで「労働条件」と命名した。

Table6 職業志向尺度の因子分析結果 (Promax 回転後の因子パターン)

項目内容	I	II	III	共通性
13. みんなから信頼され、頼りにされること	.844	-.020	-.091	.631
4. 親切で、思いやりのある人間関係を作り上げる機会	.817	.035	-.106	.631
1. みんなから、慕われ尊敬されること	.509	-.127	.117	.260
7. 仕事を通じ、自分自身が学び成長すること	.494	.304	-.129	.447
5. 勤め先が安定していて、世間で評判がよいこと	.465	-.035	.231	.348
6. 困難な仕事へ挑戦したり、責任ある仕事がまかされる機会	-.101	.767	-.088	.483
12. 最先端の技術や情報に接し、それらを実用化すること	-.086	.656	.038	.385
10. 人々の間に、お互いに教え・教えられ関係を発展させる	.122	.490	.095	.372
3. 自己の創造力や独創性が、十分発揮できること	.331	.467	-.058	.478
15. 専門的知識を深め、それを通じて他の人々を援助する	.006	.453	.146	.270
9. 国際的な交流や、取引に関する仕事をする機会	-.055	.376	.268	.238
14. 職場の環境が快適で、厚生施設が充実していること	.217	-.089	.640	.538
8. 勤務時間が短く、休日が多いこと	-.160	.022	.565	.265
11. 勤務先への通勤が便利であること	-.036	.181	.542	.361
2. 高い給与やボーナスをうる機会	.370	-.026	.382	.398
因子寄与	3.728	3.194	2.271	

職業志向尺度の下位尺度間相関と下位尺度の信頼性を Table7 示した。相関係数は全体に正の高い値であり、全ての組み合わせにおいて有意な値をえている。各下位尺度間の互いの関連はいずれも比較的強い ($r = .34$ ($p < .001$) $\sim r = .53$ ($p < .001$))。内的整合性を検討するため各下位尺度の α 係数を算出したところ、人間関係 $\alpha = .76$ 、職務挑戦 $\alpha = .66$ 、労働条件 $\alpha = .74$ 、であった。職務挑戦でやや低い他は、.74 以上と十分な値が得られた。このようにいずれの下位尺度についても、尺度の内部整合性は満足すべき水準にあるといえる。

Table7 職業志向尺度の下位尺度間相関と平均、SD、 α 係数

	人間関係	職務挑戦	労働条件	平均	SD	α
人間関係	—	0.530 ***	0.436 ***	4.53	0.55	.76
職務挑戦		—	0.359 ***	4.20	0.63	.66
労働条件			—	4.09	0.69	.74

*** $p < .001$

二、男女別の相関

男女別の進路選択に対する自己効力感尺度の相関係数を Table8 に示す。各下位尺度の男女別の相互相関を検討したところ、いずれの得点についても有意な正の相関を示した。女性では、各下位尺度間の互いの関連はいずれも比較的強い ($r = .33$ ($p < .001$) $\sim r = .61$ ($p < .001$))。男性では、各下位尺度間の互いの関連は ($r = .35$ ($p < .001$) $\sim r = .55$ ($p < .001$)) 比較的強いといえる。

Table8 進路選択に対する自己効力感尺度の男女別の相関係数

	情報収集	目標設定	問題解決	計画立案	適性評価
情報収集	—	.59 ***	.33 ***	.40 ***	.40 ***
目標設定	.41 ***	—	.55 ***	.61 ***	.55 ***
問題解決	.40 ***	.44 ***	—	.43 ***	.41 ***
計画立案	.44 ***	.55 ***	.54 ***	—	.43 ***
適性評価	.53 ***	.44 ***	.35 ***	.36 ***	—

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

右上:女性 左下:男性

職業興味下位尺度男女別の相関係数を Table9 に示す。男性では、事務職、商業美術職、販売・現業職、教育職、語学職、マスコミ職とすべての職に有意な正の相関 ($r = .26$ ($p < .001$) $\sim r = .58$ ($p < .001$)) を示したのに、女性では、教育職と語学職は ($r = .15$, n. s)、事務職とマスコミ職 ($r = .15$, n. s) は有意な相関を示さなかった。

Table9 職業興味尺度の男女別の相関係数

	商業美術職	語学職	現業・販売職	マスコミ職	事務職	教育職
商業美術職	—	.45 ***	.39 ***	.45 ***	.24 **	.28 **
語学職	.49 ***	—	.20 *	.43 ***	.21 *	.15
現業・販売職	.46 ***	.34 ***	—	.27 **	.33 ***	.34 ***
マスコミ職	.55 ***	.53 ***	.26 **	—	.15	.23 **
事務職	.45 ***	.58 ***	.32 ***	.53 ***	—	.30 **
教育職	.52 ***	.47 ***	.39 ***	.55 ***	.43 ***	—

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

右上:女性 左下:男性

職業志向下位尺度男女別の相関係数を Table10 に示す。男性と女性全では、有意な

正の相関を示した ($r = .26$ ($p < .01$) $\sim r = .60$ ($p < .001$))。

Table10 職業志向尺度の男女別の相関係数

	人間関係	職務挑戦	労働条件
人間関係	—	.44 ***	.26 **
職務挑戦	.60 ***	—	.30 ***
労働条件	.48 ***	.40 ***	—

** $p < .01$ *** $p < .001$

右上: 女性 左下: 男性

三、因子得点による男女差

男女差の検討を行うために、因子得点の平均値を男女別に算出し、 t 検定による比較を行った。自己効力感尺度と結果期待尺度の男女差の結果を Table11 に示す。進路選択に対する自己効力感尺度の各下位尺度については、男女得点差は有意ではなかった。結果期待尺度は、男女得点差は有意ではなかった。

Table11 進路選択に対する自己効力感と結果期待尺度の
男女別の平均値とSDおよび t 検定の結果

	男性(N=150)		女性(N=134)		t 値
	平均	SD	平均	SD	
情報収集	3.01	0.51	2.96	0.58	0.78
目標設定	2.93	0.52	2.75	0.56	2.74
問題解決	3.22	0.48	3.01	0.56	3.38
計画立案	2.87	0.63	2.86	0.63	0.08
適性評価	3.16	0.56	3.08	0.60	1.10
結果期待	3.08	0.47	3.13	0.57	0.88

職業興味下位尺度の男女差の結果を Table11 に示す。語学職下位尺度 ($t(282) = 4.56$ 、 $p < .001$)、マスコミ職下位尺度 ($t(282) = 2.36$ 、 $p < .05$)、事務職下位尺度 ($t(282) = 2.62$ 、 $p < .01$)、教育職下位尺度 ($t(282) = 3.20$ 、 $p < .01$) について、男性よりも女性のほうが有意に高い得点を示した。現業・販売職下位尺度 ($t(282) = 9.78$ 、 $p < .001$)

は、女性よりも男性のほうが有意に高い得点を示した。商業美術職下位尺度については、男女得点差は有意ではなかった ($t(280, 66) = 1.47$, $n.s$)。

Table11 職業興味尺度の男女別の平均値とSDおよびt検定の結果

	男性(N=150)		女性(N=134)		t 値
	平均	SD	平均	SD	
商業美術職	2.41	0.65	2.52	0.68	1.47
語学職	2.54	0.70	2.91	0.65	4.56 ***
現業・販売職	2.63	0.58	1.93	0.64	9.78 ***
マスコミ職	2.19	0.64	2.36	0.53	2.36 *
事務職	2.47	0.59	2.65	0.59	2.62 **
教育職	2.36	0.62	2.59	0.59	3.20 **

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

職業志向尺度の下位尺度男女差の結果を Table12 に示す。人間関係下位尺度 ($t(251.02) = 3.73$, $p < .001$)、男性よりも女性のほうが有意に高い得点を示した。女性は人間関係を重視する傾向を示した。労働条件下位尺度 ($t(278.10) = 3.73$, $p < .001$)、について、女性よりも男性のほうが有意に高い得点を示した。これは、女性の就職難いさに関連すると考えられる。職務挑戦下位尺度については、男女得点差は有意ではなかった ($t(282) = 0.79$, $n.s$)。

Table12 職業志向尺度の男女別の平均値とSDおよびt検定の結果

	男性(N=150)		女性(N=134)		t 値
	平均	SD	平均	SD	
人間関係	4.42	0.64	4.66	0.40	3.73 ***
職務挑戦	4.17	0.64	4.23	0.61	0.80
労働条件	4.24	0.74	3.95	0.59	-3.73 ***

*** $p < .001$

四、因子得点による学年差

学年差の検討を行うために、因子得点の平均値を学年別に算出し、t検定による比較を行った。自己効力感と結果期待の学年差の結果を Table13 に示す。これより明らかとなり、進路選択に対する自己効力感の各下位尺度の因子得点は4年生が1年生に比して有意

に高く、情報収集、目標設定、問題解決、計画立案、適性評価に関する自己効力感が高いことがわかる。結果期待には、学年間で有意な差が認められず、4年生でも将来の職業について何を期待するか明確になっていないことが示された。

Table13 自己効力感と結果期待の因子得点の平均値、SDおよび学年差の検定結果

	一年生(N=69)		四年生(N=75)		t 値
	平均	SD	平均	SD	
情報収集	2.94	0.56	3.07	0.58	1.32 *
目標設定	2.84	0.47	3.04	0.53	2.45 *
問題解決	3.04	0.56	3.23	0.54	2.11 *
計画立案	2.77	0.59	3.09	0.64	3.09 **
適性評価	3.12	0.60	3.22	0.59	0.98 **
結果期待	3.09	0.51	3.16	0.56	0.70

* $p < .05$ ** $p < .01$

職業興味尺度の下位尺度学年差の結果を Table14 に示す。商業美術職、語学職、現業・販売職、マスコミ職、事務職と教育職いずれかの職業領域には有意な得点差はみられなかった。

Table14 職業興味尺度の因子得点の平均値とSDおよび学年差の検定結果

	一年生(N=69)		四年生(N=75)		t 値
	平均	SD	平均	SD	
商業美術職	2.57	0.62	2.38	0.70	1.76
語学職	2.64	0.70	2.76	0.72	1.08
現業・販売職	2.53	0.68	2.06	0.68	4.16
マスコミ職	2.35	0.51	2.23	0.60	1.23
事務職	2.73	0.63	2.46	0.55	2.73
教育職	2.54	0.59	2.38	0.64	1.50

職業志向性尺度各下位尺度の学年差の結果を Table15 に示す。職務挑戦下位尺度は、1年生よりも4年生のほうが有意に高い得点を示した ($t(282) = 1.55$ 、 $p < .001$)。労働条件は、1年生よりも4年生のほうが有意に高い得点を示した ($t(278.10) = 1.85$ 、 $p < .01$)。人間関係は、1年生よりも4年生のほうが有意に

高い得点を示した ($t(282) = 0.39$ 、 $p < .01$)。

Table15 職業志向尺度の因子得点の平均値とSDおよび学年差の検定結果

	一年生(N=69)		四年生(N=75)		t値
	平均	SD	平均	SD	
職務挑戦	4.17	0.58	4.33	0.67	1.55 ***
労働条件	4.01	0.72	4.22	0.67	1.85 **
人間関係	4.48	0.54	4.52	0.64	0.39 **

** $p < .01$ *** $p < .001$

五、自己効力感尺度・結果期待尺度・職業志向尺度と職業興味尺度の関連

自己効力感・結果期待・職業志向が職業興味にどのように影響を与えているのかを明らかにするために、職業興味尺度の6つの下位尺度ごとに、進路選択に対する自己効力感尺度の5つの下位尺度、結果期待の1つの尺度、職業志向性尺度の6つの下位尺度それぞれ説明変数とした重回帰分析を行なった。

分析で得られた結果、重回帰分析の結果とパス図を Table16～18 と Figure 1～3 に示す。

1、進路選択に対する自己効力感尺度と職業興味尺度との関連

Table16 自己効力感尺度と職業興味尺度との関連 重回帰分析の結果

説明変数	目的変数 (N=284)					
	商業美術職	語学職	現業・販売職	マスコミ職	事務職	教育職
情報収集	0.097	0.177 **	0.098	0.124 †	0.214 **	0.040
目標設定	-0.017	0.008	0.113	0.005	-0.097	-0.033
問題解決	0.118	-0.101	0.196 **	0.043	-0.013	0.129 †
計画立案	-0.041	0.086	-0.081	0.112	0.183 *	0.057
適性評価	0.102	0.048	-0.003	-0.104	-0.143 *	-0.033
R ² 乗	0.047 *	0.052 *	0.082 ***	0.037 †	0.064 **	0.024

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

「商業美術職」と「語学職」について、分析の結果、ともにどの尺度とも有意な関連は見られなかった。

「語学職」について、分析の結果、「情報収集」のみ有意な正の関連が見られた。つまり、「語学職」の職業興味に対して「情報収集」の自己効力感が影響していると考えられる。

「現業・販売職」について、分析の結果、「問題解決」のみ有意な正の関連が見られた。つまり、「現業・販売職」の職業興味に対して「問題解決」の自己効力感が影響していると考えられる。現業・販売職は専門知識を必要とする仕事であり、問題解決能力を重視していると考えられる。

「マスコミ職」について、分析の結果、「情報収集」のみ有意な正の関連が見られた。つまり、「マスコミ職」の職業興味に対して「情報収集」の自己効力感が強く影響していると考えられる。マスコミ職の特徴は、いろいろな専門分野と関連している。このことから、マスコミ職に対して、興味を持っている学生が情報収集を重視している。

「事務職」について、分析の結果、「情報収集」と「計画立案」ともに有意な正の関連が見られた。関連の強さは「情報収集」のほうが「計画立案」よりも強かった。また、「適性評価」のみ有意な負の関連が見られた。つまり、「事務職」の職業興味に対して「情報収集」の自己効力感が強く影響し、「計画立案」と「適性評価」の自己効力感が弱く影響していると考えられる。

「教育職」について、分析の結果、「問題解決」のみ有意な正の関連が見られたが、重決定係数はやや低い値であった。つまり、「教育職」の職業興味に対して「問題解決」の自己効力感が弱く影響していると考えられる。教育職は専門性が高い仕事であり、もちろん職務挑戦志向性と関連していると考えられる。

2、 結果期待尺度と職業興味尺度との関連

Table17 結果期待尺度と職業興味尺度との関連 重回帰分析の結果

説明変数	目的変数 (N=284)					
	商業美術職	語学職	現業・販売職	マスコミ職	事務職	教育職
結果期待	0.088	0.136 *	0.088	0.000	0.114 †	0.125 *
R ² 乗	0.008	0.019 *	0.008	0.000	0.013 †	0.016 *

***p<.001 **p<.01 *p<.05 †p<.10

「商業美術職」、「現業・販売職」と「マスコミ職」について、結果期待との関連は見られなかった。結果期待尺度の下位尺度は一つしかないに関連するかもしれない。

「語学職」、「事務職」と「教育職」について、分析の結果、結果期待との有意な正の関連が見られた。つまり、「語学職」、「事務職」と「教育職」の職業興味に対して結果期待が弱く影響していると考えられる。

3、 職業志向尺度と職業興味尺度との関連

Table18 職業志向尺度と職業興味尺度との関連 重回帰分析の結果

説明変数	目 的 変 数 (N=284)					
	商業美術職	語学職	現業・販売職	マスコミ職	事務職	教育職
人間関係	-0.070	0.059	-0.244 **	0.055 **	-0.073	-0.057
職務挑戦	0.138 †	0.135 †	0.320 ***	-0.179 *	0.162 *	0.183 *
労働条件	0.107	0.139 *	-0.034	0.172 *	0.194 **	0.018
R ² 乗	0.029 *	0.071 ***	0.080 ***	0.178 **	0.067 ***	0.027 †

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05 † p<.10

「商業美術職」について、分析の結果、「職務挑戦」のみ有意な正の関連が見られた。つまり、「商業美術職」の職業興味に対して「職務挑戦」の職業志向が弱く影響していると考えられる。中国では、商業美術職は残業が多いから、職務挑戦志向と関連すると考えられる。

「語学職」について、分析の結果、「職務挑戦」と「労働条件」ともに有意な正の関連が見られた。つまり、「語学職」の職業興味に対して「職務挑戦」と「労働条件」の職業志向が弱く影響していると考えられる。

「現業・販売職」について、分析の結果、「職務挑戦」のみ有意な正の関連が見られた。また、「人間関係」のみ有意な負の関連が見られた。つまり、「現業・販売職」の職業興味に対して「人間関係」と「職務挑戦」の職業志向が強く影響していると考えられる。

「マスコミ職」について、分析の結果、「人間関係」と「労働条件」ともに有意な正の関連が見られた。関連の強さは「労働条件」のほうが「人間関係」よりも強かった。また、「職務挑戦」のみ有意な負の関連が見られた。つまり、「マスコミ職」の職業興味に対して「人間関係」、「職務挑戦」と「労働条件」の職業志向が弱く影響していると考えられる。

「事務職」について、分析の結果、「職務挑戦」と「労働条件」ともに有意な正の関連が

見られた。関連の強さは「労働条件」のほうが「職務挑戦」よりも強かった。つまり、「事務職」の職業興味に対して「職務挑戦」と「労働条件」の職業志向が弱く影響していると考えられる。

「教育職」について、分析の結果、「職務挑戦」のみ有意な正の関連が見られた。つまり、「教育職」の職業興味に対して「職務挑戦」の職業志向が弱く影響していると考えられる。

4、 自己効力感尺度・結果期待尺度・職業志向尺度と職業興味尺度との関連

前の重回帰分析を加えて、進路選択に対する尺度、結果期待尺度、職業志向尺度の 10 下位尺度を説明変数として、重回帰分析を行なった。その結果は Table19 示す。

Table19 自己効力感尺度・結果期待尺度・職業志向尺度と職業興味尺度との関連
重回帰分析の結果

説明変数	目 的 変 数 (N=284)					
	商業美術職	語学職	現業・販売職	マスコミ職	事務職	教育職
情報収集	0.088	0.126	0.094	0.132 [†]	0.182 *	0.004
目標設定	-0.022	0.025	0.088	-0.008	-0.095	-0.034
問題解決	0.141 [†]	-0.108	0.182 *	0.082	0.011	0.115
計画立案	-0.058	0.053	-0.089	0.091	0.155 *	0.042
適性評価	0.102	0.040	0.012	-0.090	-0.155 *	-0.044
結果期待	0.006	0.024	0.052	-0.056	0.055	0.103
人間関係	-0.106	0.042	-0.283 ***	-0.189 **	-0.097	-0.085
職務挑戦	0.070	0.110	0.221 **	0.098	0.100	0.129 [†]
労働条件	0.151 *	0.125 [†]	0.021	0.218 **	0.200 **	0.036
R ² 乗	0.071 *	0.100 ***	0.143 ***	0.089 **	0.116 ***	0.048 [†]

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05 [†] p<.10

「商業美術職」について、分析の結果、「問題解決」と「労働条件」ともに有意な正の関連が見られた。つまり、「商業美術職」の職業興味に対して「問題解決」の自己効力感と「労働条件」の職業志向が弱く影響していると考えられる。

「語学職」について、分析の結果、「労働条件」のみ有意な正の関連が見られた。つまり、「語学職」の職業興味に対して「労働条件」の職業志向が弱く影響していると考えられる。

「現業・販売業」について、分析の結果、「問題解決」と「職務挑戦」ともに有意な正の

関連が見られた。関連の強さは「職務挑戦」のほうが「問題解決」よりも強かった。また、「人間関係」のみ有意な負の関連が見られた。つまり、「現業・販売業」の職業興味に対して「職務挑戦」と「人間関係」の職業志向が強く影響し、「問題解決」の自己効力感が弱く影響していると考えられる。現業・販売職は専門性、複雑性高い仕事であり、もちろん職務挑戦と人間関係の職業志向を重視している。

「マスコミ職」について、分析の結果、「情報収集」と「労働条件」ともに有意な正の関連が見られた。関連の強さは「労働条件」のほうが「情報収集」よりも強かった。また、「人間関係」のみ有意な負の関連が見られた。つまり、「マスコミ職」の職業興味に対して「労働条件」の職業志向が強く影響し、「情報収集」の自己効力感と「人間関係」の職業志向が弱く影響していると考えられる。マスコミ職は、いろいろな専門分野と関連して、他者とのやりとりを重視する仕事である。したがって、「情報収集」の自己効力感と「人間関係」志向性はマスコミ職へ影響を与えていると考えられる。

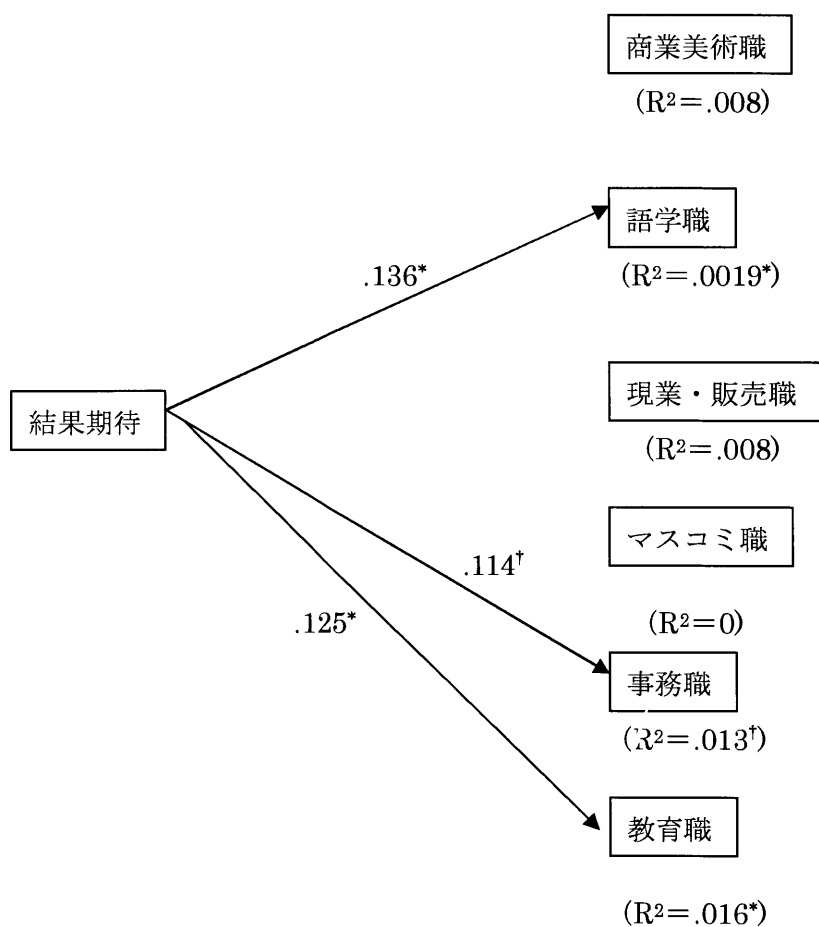
「事務職」について、分析の結果、「情報収集」、「計画立案」と「労働条件」ともに有意な正の関連が見られた。関連の強さは「労働条件」のほうが最も強かった。また、「適性評価」のみ有意な負の関連が見られた。つまり、「事務職」の職業興味に対して「情報収集」、「計画立案」と「適性評価」の自己効力感と「労働条件」の職業志向が影響していると考えられる。

「教育職」について、分析の結果、「職務挑戦」のみ有意な正の関連が見られた。つまり、「教育職」の職業興味に対して「職務挑戦」の職業志向性が影響していると考えられる。教育職は専門性が高い仕事であり、もちろん職務挑戦志向性と関連していると考えられる。

重回帰分析の結果から以下のことがわかる。まず、結果期待が職業興味に及ぼす影響を認められなかった。これは、結果期待尺度の下位尺度は一つしかないに関連するかもしれない。そして、進路選択に対する自己効力感は、職業興味に影響しているが、ただし、そのなか、目標設定効力感といずれかの職業領域の間に関連性を見られなかった。最後に、職業志向性は職業興味に対して影響力を有していた。

結果期待

職業興味



(\longrightarrow $\beta \leq .20$ \longrightarrow $.20 < \beta < .40$ \longrightarrow $\beta \geq .40$)
 (----- \rightarrow $\beta \geq -.20$ - - - \rightarrow $-.20 > \beta > -.40$ - - \rightarrow $\beta \leq -.40$)
 (** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ $^†p < .10$)

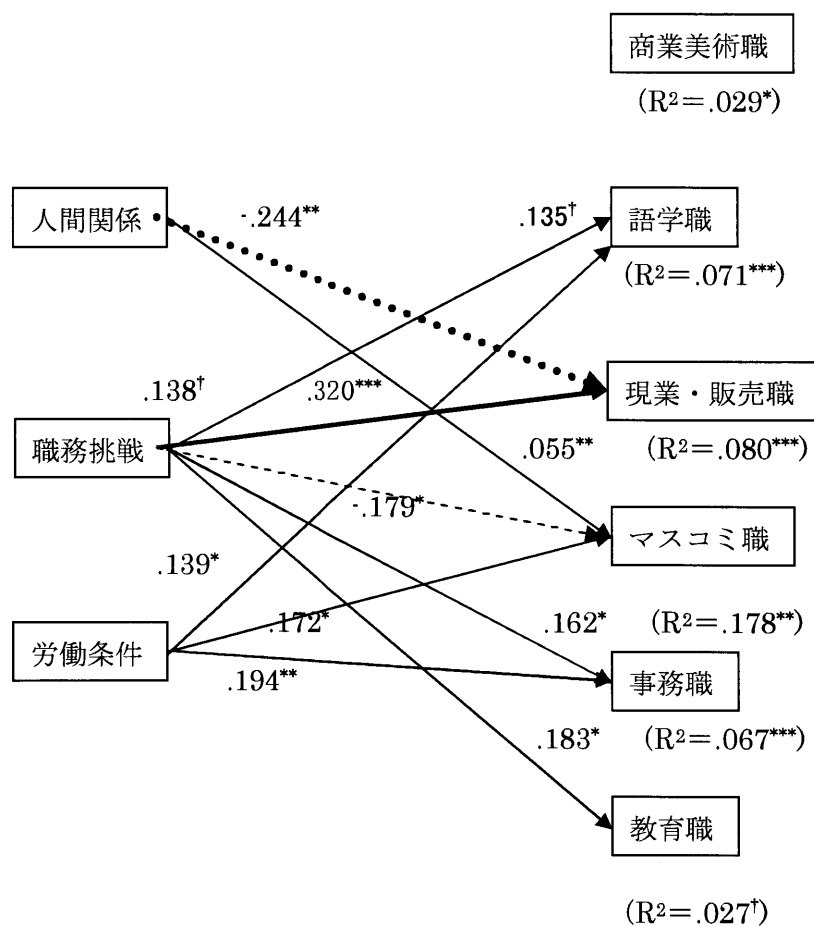
注) 実線のパスは正の影響、破線のパスは負の影響を示す。

有意なパスのみを示した。

Figure 2 結果期待と職業興味との関連

職業志向

職業興味



(\longrightarrow $\beta \leq .20$ \longrightarrow $.20 < \beta < .40$ \longrightarrow $\beta \geq .40$)
 (----- $\beta \geq -.20$ ----- $-.20 > \beta > -.40$ ----- $\beta \leq -.40$)
 (** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ $^{\dagger}p < .10$)

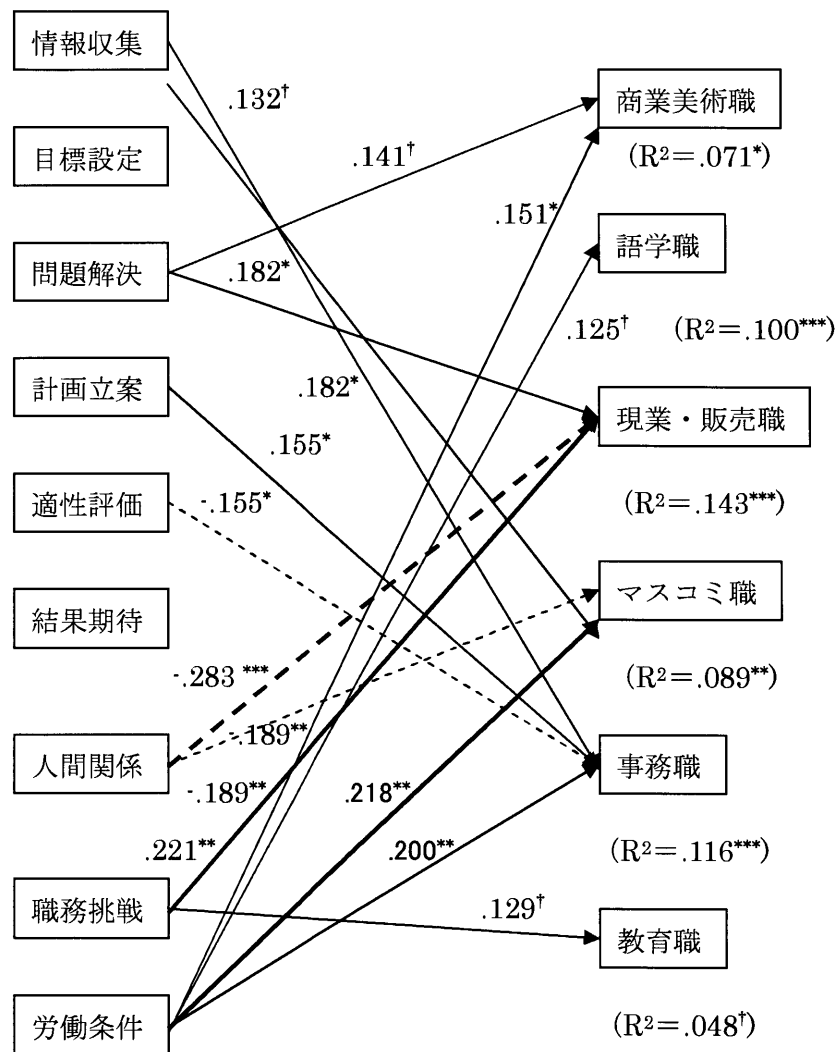
注) 実線のパスは正の影響、破線のパスは負の影響を示す。

有意なパスのみを示した。

Figure 3 職業志向と職業興味との関連

自己効力感・結果期待・職業志向

職業興味



(————→ $\beta \leq .20$ ————→ $.20 < \beta < .40$ ————→ $\beta \geq .40$)
 (-----→ $\beta \geq -.20$ -----→ $-.20 > \beta > -.40$ -----→ $\beta \leq -.40$)
 (**p < .001 **p < .01 *p < .05 †p < .10)

注) 実線のパスは正の影響、破線のパスは負の影響を示す。

有意なパスのみを示した。

Figure 4 自己効力感・結果期待・職業志向と職業興味との関連

六、専攻別にみた職業興味の特徴

大学生が持っている職業興味は、大学における所属学部・学科と一定の対応関係にあることが予想される。大学における専門教育が将来の職業への準備教育である以上、専攻分野と対応した職業興味をもっていることが重要である。また将来の職業と職業興味との関係も重要になってくる。ここでは、専攻別にみた職業興味の各下位尺度の特徴を明らかにしていく。そして、職業興味が両親の学歴・職業といったデモグラフィック要因とどこような関係にあるかを検討する。

Table20 専攻グループ別にみた職業興味尺度の専攻別平均値と分散分析の結果

専 攻	N	商業美術職	語学職	現業・販売職	マスコミ職	事務職	教育職
計算機 (情報工学)	50	2.60	2.71	2.59	2.25	2.68	2.51
教師教育	36	2.34	2.64	2.04	2.37	2.62	2.73
機械工学	53	2.58	2.58	2.73	2.31	2.42	2.48
外国語学院	31	2.27	3.13	1.52	2.32	2.54	2.26
能動学院(建築環境)	34	2.29	2.57	2.46	2.05	2.44	2.35
会計 財経	33	2.56	2.70	2.04	2.26	2.99	2.53
材料科学(金属、分子素材)	23	2.43	2.58	2.57	2.18	2.28	2.25
医学技術学院 (医学検験)	18	2.67	2.97	2.07	2.38	2.36	2.70
人文学科	6	1.96	2.97	1.90	2.52	2.24	2.11
1要因分散分析(F値)		2.05 *	2.45 *	14.76 ***	1.08	4.61 ***	2.52 **

* $p<.05$ ** $p<.01$ *** $p<.001$

Table20 は専攻分野別に 9 の下位グループの平均値を示した。グループ別の傾向を見るために、職業興味の下位尺度ごとに 1 要因分散分析を行った。その結果は Table20 に示した通りである。また、下位群間の平均値を下位検定によって検討したところ、商業美術職では($F(8, 275)=2.052, p<.05$)、人文学科の得点はそのほかの専攻より低い ($P<.05$)。

語学職 ($F(8, 275)=2.448, p<.05$) では、外国語学院の得点が一番高い、それ以外すべてのグループの得点差は明確ではない ($P<.05$)。

現業・販売職 ($F(8, 275)=14.764, p<.001$) では、機械工学、情報工学、材料科学、能動学院グループの得点がほかのグループより高い ($P<.001$)。

マスコミ職 ($F(8, 275)=1.078, n.s$) は、分散分析の結果は有意ではなかった。そして、グループ間の差は明確ではない。

事務職 ($F(8, 275)=4.608, p<.001$) では、会計グループの得点とそのほかの専攻より

高い ($P < .001$)。

教育職 ($F(8, 275) = 2.522, p < .01$) では、教師教育と医学技術グループの値が、ほかの専攻より高い値を得ている ($p < .01$)。

このように、それぞれの職業興味は、大学における専攻分野にほぼ対応しているといえる。中国の大学生は、学校で身に付ける知識や教養と職業が直接関連すると考えられる。

七、職業志向と職業興味との相関

Table21 職業興味と職業志向との下位尺度間相関係数

	商業美術職	語学職	現業・販売職	マスコミ職	事務職	教育職
職務挑戦	.13 ***	.17 ***	.07 ***	.25 ***	-.13 ***	.08 ***
人間関係	.01	.10 **	-.03	.06	.01 ***	.18 ***
労働条件	.03	.14 ***	-.04	-.01	.12 ***	.11 **

** $p < .01$ *** $p < .001$

職業興味と職業志向の各下位尺度間の相関係数を示した Table21 から以下のことがわかる。第1に、商業美術職、語学職、マスコミ職のいずれかの領域に興味の高い者は、職務挑戦志向が強い。このうち商業美術職とマスコミ職とは職務挑戦だけに強い志向を示すが、語学職の場合は職務挑戦だけでなく労働条件や人間関係への志向も強い。第2に、教育職は人間関係と強く関連しており、労働条件とは負の関係を示している。第3に、事務職に興味の高い者は労働条件志向が強く、職務挑戦志向が低いことがわかる。

職業生活を通じて何を求めるかという職業志向性と職業興味とは、第1、仕事の上で重い責任や自己の可能性を求める職務挑戦志向性の高い大学生は、マスコミ職、語学職などに高い興味（正の相関）を有し、逆に事務職には低い興味（負の相関）を有することが明らかとなった。第2に、高い給与や福利厚生を求める労働条件志向性の高い大学生は、事務職や語学職に高い興味を持ち、逆に教育職には低い興味を有することが示された。第3に、人間関係志向性は教育職に対する興味と有意な正の相関を示した。

八、家庭の要因と職業興味との関係

最後に、父親・母親の学歴や職業によって職業興味に違いがあるかを検討する。

父親の学歴別にみた各下位尺度の職業興味得点と 1 要因分散分析の結果を Table22 示した。Table22 から明らかなように、語学職、マスコミ職、事務職の 3 つの下位尺度において有意な F 値を得た ($p < .01$)。

グループ間で平均値を比較したところ、マスコミ職と語学職においては、大学卒及び高校卒と義務教育修了との間に差がみられた。いずれも大学卒及び高校卒の方が義務教育修了よりも値が高く、マスコミ職、語学職に対する興味が強いことが示された。一方、事務職においては、高校卒と大学卒との間に差がみられた。そして、高校卒の方が平均値の値が高く、事務職に対する職業興味が強いことが示された。

Table22 父親の学歴別にみた職業興味得点

父親の学歴	人数	商業美術職	語学職	現業・販売職	マスコミ職	事務職	教育職
義務教育終了	70	2.13	2.18	1.35	2.09	2.19	2.30
高校卒業	137	2.14	2.32	1.34	2.22	2.26	2.24
短大(高専)卒業	5	2.18	2.35	1.35	2.19	2.18	2.29
大学卒業	72	2.14	2.33	1.32	2.27	2.14	2.34
1要因分散分析(F値)		.28	4.48 **	.29	4.49 **	4.06 **	1.66

** $p < .01$

父親の職業別にみた各下位尺度の職業興味得点と 1 要因分散分析の結果を Table23 に示した。Table23 から明らかなように、商業美術職、現業・販売職、教育職の 3 つの下位尺度において有意な値を得た ($p < .05$)。

グループ間で平均値を比較したところ、教育職においては、公務員と自営業との間に差がみられた。そして、公務員の方が値が高く、教育職に対する興味が強いことが示された。一方、現業・販売職においては、自営業と会社勤務との間に差がみられた。そして、自営業のほうが高値が高く、現業・販売職に対する職業興味が強いことが示された。なお、商業美術職については、平均値ではその他や自営業のグループが高くなっているが有意な結果を得ることはできなかった。

Table23 父親の職業別にみた職業興味得点

父親の職業	人数	商業美術職	語学職	現業・販売職	マスコミ職	事務職	教育職
公務員	31	2.19	2.26	1.32	2.25	2.31	2.45
会社勤務	162	2.10	2.31	1.32	2.20	2.22	2.28
専門的職業	12	2.11	2.26	1.31	2.16	2.09	2.38
自営業	71	2.24	2.27	1.39	2.20	2.19	2.22
その他	8	2.27	2.26	1.36	2.29	2.21	2.24
1要因分散分析(F値)		2.72 *	.42	2.71 *	.43	1.99	3.15 *

* $p<.05$

Table24 には、母親の学歴別にみた各下位尺度の職業興味得点と 1 要因分散分析の結果を示した。Table23 から明らかなように、いずれの下位尺度についても有意な結果を見出すことは出来なかった。すなわち、大学生の職業興味は母親の学歴の影響を受けにくいという。

Table24 母親の学歴別にみた職業興味得点

母親の学歴	人数	商業美術職	語学職	現業・販売職	マスコミ職	事務職	教育職
義務教育終了	78	2.12	2.24	1.32	2.13	2.18	2.31
高校卒業	157	2.14	2.30	1.34	2.22	2.24	2.24
短大(高専)卒業	36	2.16	2.32	1.34	2.28	2.16	2.36
大学卒業	13	2.30	2.28	1.30	2.24	2.10	2.36
1要因分散分析(F値)		1.13	0.97	0.59	2.26	2.27	1.98

Table25 には、母親の職業別にみた各下位尺度の職業興味得点と 1 要因分散分析の結果を示した。Table25 から明らかなように、事務職と現業・販売職において有意な F 値を得た ($p<.05$ 、 $p<.01$)。

グループ間で平均値を比較したところ、専門事務職と語学職においては、自営業と専門的職業との間に差がみられた。そして自営業の方が値が高く、事務職に対する興味が強いことが示された。一方、現業・販売職においては、自営業と専門職との間に差がみられた。そして自営業の方が平均値が高く、現業・販売職に対する職業興味が強いことが示された。

以上の結果から、父親に比べると母親の学歴や職業と大学生の職業興味との間に明確な関係を見出すことは難しいと思われる。

Table25 母親の職業別にみた職業興味得点

母親の職業	人数	商業美術職	語学職	現業・販売職	マスコミ職	事務職	教育職
公務員	22	2.30	2.37	1.33	2.33	2.15	2.40
会社勤務	93	2.14	2.28	1.32	2.18	2.25	2.31
専門的職業	24	2.13	2.30	1.24	2.29	1.95	2.51
自営業	108	2.25	2.28	1.42	2.22	2.28	2.22
その他	37	2.12	2.33	1.34	2.22	2.21	2.32
1要因分散分析(F値)		1.48	.23	3.45 **	.89	2.52 *	2.03

* $p<.05$ ** $p<.01$

総合考察

本研究では、Lent、Brown & Hackett (1994) の社会認知的進路理論にもとづく、進路に関する効力感、結果期待、職業興味と職業志向性という4つの変数によって、中国における大学生の進路発達過程の学年と男女の違いを明らかにした。進路選択に対する自己効力感、結果期待が職業興味に及ぼす影響について検討した。また専攻分野別と職業興味の関係を検討した。そして職業興味が両親の学歴・職業といったデモグラフィック要因と関連しているかを検討した。

進路選択に対する効力感の男女差については、t 検定の結果、男女得点差は有意ではなかった。日本において、性別と効力感の関連性を扱った研究の多くは、男性が女性よりも高い効力感をもつことを見出している。しかし、本研究の調査では、性別と効力感の間に有意な差がみられなかった。中国では、男女差別ということが社会全体に認められなかった。そのため、対象とした男女大学生の教育的背景や訓練の水準が同じ程度であると考えられる。学習経験や社会化の過程を経て自己効力感が形成、変容するという Bandura (1986) の主張に従うならば、教育的背景や社会化のプロセスが類似している男女は同程度の効力感を発達させることができるだろう。

結果期待の認知についても、男女の間に有意な差がみられなかった。職業選択に対する効力感のレベルは男子に劣らない女子大学生が、結果期待への見通しは男子と同じ程度と考えられる。男女平等という社会背景の下で男女雇用機会均等、就職後昇進での女性に対する差別的取扱いは禁止されている。女性は必要な能力や知識を身につけると、男子との待遇差が克服できる。これらの実情を踏まえると、結果期待の概念を取り入れ検討することで、中国大学生の進路発達における男女差を説明することができないかもしれない。

職業興味の男女差については、現業・販売職には、女性より男性のほうが高い興味得点を示す。Hackett & Betz (1981) は、女性としての性役割社会化を受けた女子学生は、男性的領域における自己能力を低く認知するために、能力や可能性が十分に発揮されないことを指摘している。こうした点から考えると、男性的領域における現業・販売職については、やはり男性のほうが高い興味傾向を示しと考えられる。女性的領域における語学職、マスコミ職、事務職、教育職については、やはり女性のほうが高い興味傾向を示しと考えられる。

職業志向性の男女差については、人間関係志向は、男性よりも女性のほうが得点高い。人間関係を重視する傾向は女性特有の特徴と考えられる。労働条件志向は、男性よりも女性のほうが

得点低い。これは、女性の就職難いさと関連すると考えられる。

学年については、算出した因子得点を比較したところ、進路選択に対する自己効力感は、4年生が1年生より高い傾向を示している。Betz & Schifano (2000)の研究によると、効力感の認知が仕事活動を直接的・間接的に体験したり、自己の能力や適性について再評価したり、あるいは将来の見通しを現実にした形で予測する、こうした個人の認知を修正・変容させるような働きかけも進路に対する効力感や結果期待の育成に有効な影響力をもつ。就職活動の一環として行われている社会実践研修やOB訪問など仕事領域の活動を間接体験するような諸活動、広い意味では効力感の形成に意味ある役割を果たすと考えられる。これより、仕事内容に関連した社会実践活動に焦点をあてた、教育的指導による働きかけが進路発達に有効な方策となるかもしれない。

結果期待には、学年間で有意な差が認められず、入学後約2か月余とまもない1年生は4年生に比して、何を職業として選択すべきかについてまだはっきりとした展望はなく、就職の決断を先延ばしにする傾向が強いことがわかる。

職業興味については、有意な学年差がみられなかった。興味と学年間に関連していないと考えられる。大学生自身の社会経験と個人のパーソナリティなどは興味へ強い影響を及ぼすと考えられる。

職業志向性の学年差については、4年生のほうが有意に高い傾向をみせている。理由としては、就職がまだ現実的な問題になってない1年生には、職業に何を求めるかということについて具体的目標がなく、4年生になって就職が現実の問題となると、職業に求めるものが明確化されていくと考えられる。

結果期待が職業興味に及ぼす影響を見られなかった。これは、結果期待尺度の下位尺度は一つしかないに関連するかもしれない。進路選択に対する自己効力感、職業興味に影響しているが、ただし、そのなか、目標設定効力感といずれかの職業領域の間に関連性を見られなかった。職業志向性は職業興味に対して影響力を有していた。各尺度の間に関連性については、明確化は十分とはいえない。今後、尺度項目を吟味し、調査対象を拡大しての再検討を要する。

専攻別にみた職業興味の特徴については、それぞれの職業興味は、大学における専攻分野にほぼ対応している。中国の大学生は、大学の専攻を選択するとき、将来就く職業を念頭において大学の専攻を選択したというより、高校時の成績が良好だった科目、あるいは興味がある科目に基づく選択をしている。したがって、中国の大学生は大学で専攻した科目と対応した職業興味をもっていると考えられる。

大学生の職業興味規定要因としては、父親の学歴が重要である。父親が高学歴であるほど、本人のマスコミ職と語学職に対する興味が高まる傾向が見出された。ただし、事務職に対する興味は、父親の学歴が高校卒のグループで最高であった。他の規定要因として父親の職業が調べられたが、父親の職業が公務員のグループで教育職への興味が高く、自営業・その他のグループで商業美術と現業・販売職に対する興味が高まる傾向が見出された。しかし、母親の学歴、母親の職業については、有意な結果は得られなかった。

本研究では、各変数が進路発達への影響及び各変数の相互関連が明確した。重回帰分析の結果から進路選択に対する自己効力感から職業興味へと繋がる道筋に影響を及ぼしていると考えられる。そのなか、特に情報収集効力感、問題解決と適性評価効力感が職業興味と関連している。大学生の選職行動に関する記述では、最も適した職業を選択するために、自分の興味や適性を理解し的確に把握することの重要性が指摘されている(広井、1980)。安住(2004)によると、自己効力感は行動の変容のために操作することが可能であり、指導において自己効力感を高めることができる。したがって、進路選択に対する自己効力感を高める援助や介入を行うことが、職業選択問題の解決に有効な影響を及ぼすといえる。以上の結論により、就職支援体制の改善を模索している中国の各大学は、学生の自己効力感を高めることがこれからの支援活動において、力を入れるべきところではないかと考えられる。また、現在の支援活動の範囲は四年生にとどまり、単なる就職を目的とし、形ばかりの支援に流されることが多い。本研究で分かったように、大学生の進路選択は短期間で決断ものではない。そして、父母の教育状況、社会体験など要因が直接的にも間接的にも進路発達過程へ影響を及ぼすとしている。そのため、学生の職業意識、自己理解が確立させるために、大学、家庭、社会の連携で、大学教育の質を高め、学生の総合的な素質と能力を育成すべきである。そして、支援活動の範囲も四年生から一年生まで拡大し、生き方の指導を含む教育的な活動として展開すべきである。

今後の課題

中国には進路発達に関する研究がまだ理論的な探求、海外の資料を翻訳する段階にとどまり、実証的な研究は皆無に近く。中国においては地域、経済、文化習慣等さまざまな格差が存在しており、進路発達理論を含む心理学の理論を定着するために、実証研究が不可欠である。より多くの実証研究により、理論そのものに対する理解が一層進める。

本研究では測定尺度の吟味を目的としていないため、日本の尺度を翻訳して使用した。得られた結果は、4年制大学1校のみから収集したデータによって検討したため、結果の解釈は中国における大学生の進路発達問題の現状を把握するのに十分とはいえない。

また、今回は調査対象者の人数が十分でないため、専攻別尺度得点の差異を明らかにできなかった。しかし、大学やそこでの専攻といった教育的背景は個人変数の一つとして進路選択過程に対して直接的にも間接的にも影響を及ぼすと思われる。また、そこで培った知識や技術は学習経験となり、効力感や結果期待の形成・変容に関わるであろう。したがって、今後専攻による差異が、進路選択の過程へどのように関わるかを調べる必要がある。

今後の課題としては、調査対象を拡大し、国立と私立の学校差、地域差、専攻差などについて詳細に検討することにより、モデルの適合性や汎用性の問題を明らかにすることと考えられる。また、本研究では横断的手法を用いて調査が行われていたが、進路発達過程にかかわる諸関連について検討する際、本来ならば縦断的手法が推奨されよう、今回得られた結果を始発点とし、縦断的研究デザインを用いて大学生の進路発達過程についてさらなる検討を要しなければならない。

引用・参考文献：

- 安達智子 2001 大学生の進路発達過程-社会・認知的進路理論からの検討- 教育心理研究
- 安達智子 2003 大学生の職業興味形成プロセス 教育心理研究 51, 308-318
- 安達智子 2002 博士論文 p104-105、p108-109、P126
- 安住伸子・足立由美 2004 「女子大生の進路選択決定援助に関する研究」 学生相談研究 25、44-54
- Bandura, A. 1986 Social foundations of thought and action: A social cognitive theory. Englewood Cliffs, NJ : Prentice-Hall
- Betz, N.E., & Vuyten, K.K 1997 Efficacy and outcome expectations influence career expectations and decidedness. Career Development Quarterly, 46 , 179-189
- Betz , N.E., & Schifano ,R.S. 2000 Evalute an intervention to increase realist efficacy and interests in college women. Journal of Vocational Behavior, 56, 35-52
- 白智瑞 1998 進路選択に対する自己効力の育成 心理学研究 1998、(1) 28-35
- 東清和 安達智子 2003 大学生の職業意識の発達 学文社
- Holland, J.L. 1985 Making vocational choices: A theory of careers .NJ: Prentice-Hall
- Hackett, G., & Betz, N.E. 1981 A self-efficacy approach to the career development of women. Journal of Vocational Behavior, 18, 326-339
- 楠奥繁則 2006 わが国の大学生における進路選択過程に対する自己効力研究の課題 立命館経営学 45、147-162
- 国家統計局編 2004 中国教育統計年鑑 中国統計出版社
- 方利洛 1996 Holland 式中国職業興味 心理学報 (3) 113-119
- Lent R.W., Brown, S.D., & Hackett, G. 1994 Toward a unifying social cognitive theory of career and academic interest, choice and performance [Monograph]. Journal of Vocational Behavior, 45 79-122
- 劉少文 1999 職業興味調査表の編制 中国臨床心理学雑誌 (2) 120-125
- 凌文韜 1998 中国大学学部職業興味類型図試み 心理学報 (1) 78-83
- 李明遠 2002 進路選択行動についての心理学的考察 中国臨床心理学雑誌 (2) 101-113
- 李永鑫 2003 中国職業興味研究 信陽師範学院報 (4) 56-59
- 室山晴美 1997 自己の職業興味の理解と進路に対する準備どが職業情報の検索に及ぼす効果 進路指導研究 18(1) 17-26

- 清水裕 2005 大学生の就職自己イメージ尺度作成の試み 社会心理学研究 191-200
- 沈朝陽 2002 大学生の進路選択と情報収集 職業指導研究雑誌 (1) 68-72
- Super D. E. 1957 The Psychology of careers. Harpre & Brothers. (日本職業指導学会訳 1960 職業生活の心理学 誠信書房)
- Taylor, K. M., & Betz, N. E 1983 Applications of self-efficacy theory to the understanding and treatment of career indecision. Journal of Vocational Behavior, 22, 63-81
- 浦上昌則 1996 女子短大生の職業選択過程についての研究—進路選択に対する自己効力、就職活動、自己概念の関連から— 教育心理研究 44、195-203
- 若林満・後藤宗理 1989 女子大学生の職業興味と職業選択 名古屋大学教育学部紀要 36、1-31
- 若林満・後藤宗理 1985 女子大学生における職業選択過程の予測研究 名古屋大学教育学部紀要 32、287-310

進路選択に関する意識調査

ご協力のお願い

この調査は、職業選択に対する意識を調査するものです。それぞれの質問に関して、あなたの感じているお気持ちをありのままに回答してください。

なお、このデータを全体的に統計処理することが目的であり、それ以外の目的に使用されることはありません。したがって皆さんのプライバシーは完全に保護されます。回答者の方に個人的なご迷惑をおかけすることは決してありませんので、お手数とは思いますがご協力をお願いいたします。

2006 年 10 月

實施者 学校教育専攻 鄭麗芳

連絡先 E-MAIL : zm9926@yahoo.com.cn

あなた自身のことについてお答えください

- 1 学部 []
2 学年 [1年 ・ 2年 ・ 3年 ・ 4年 ・ 5年以上]
3 性別 [男 ・ 女]
4 年齢 [] 歳

I、あなたは以下の項目に対して、どのくらい自信がありますか。

①「まったく自信がない」②「あまり自信がない」③「少し自信がある」④「非常に自信がある」
のうち最も近いと思う数字ひとつに○をつけてください。

1. 将来の職業を決定し、その後は職業選択について悩まない.....1 2 3 4
2. 職業生活で何を重要視するかを明確にする.....1 2 3 4
3. 自分が最も適している職業領域を確立する.....1 2 3 4
4. 自分の興味にあった職業を選択する.....1 2 3 4
5. 人と接触を主とする職業に就くのか、主に物や情報を扱う職業に就くのか
を決定する.....1 2 3 4
6. 失敗や挫折があっても希望する職業に就くために努力を続ける.....1 2 3 4
7. 志望職業に就くために試験や面接が上手くいかなくても再度
チャレンジする.....1 2 3 4
8. 志望職業に両親や友人が反対しても、説得して理解を得る.....1 2 3 4
9. 例え長い時間や労力がかかっても、将来の職業のためになるなら知識や技術
を身に付ける.....1 2 3 4
10. 好きな仕事に就くためなら遠近や地域を問わず、どこでも移動する.....1 2 3 4
11. 将来の職業のために在学中やっておくべきことの計画を立てる.....1 2 3 4
12. 将来の仕事において役立つと思われる免許・資格取得の計画を立てる.....1 2 3 4
13. 人生の目標を明らかにし、それに従って職業計画を組み立てる.....1 2 3 4
14. 志望職業の実現に向けて就職活動の計画を念入りにたてる.....1 2 3 4
15. 職業計画に無理が生じた場合、柔軟に計画を修正できるようにしておく.....1 2 3 4
16. 将来、どのような人生を送りたいかを明確にする.....1 2 3 4
17. 自分がどのような職業分野に向いているかを理解する.....1 2 3 4
18. 自分の性格や興味を正確に判断する.....1 2 3 4
19. 自分の適性や能力を正確に把握する.....1 2 3 4
20. 自分の将来の目標と、これまでの経験を関連させて考える.....1 2 3 4
21. 新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどを利用して職業情報を集める.....1 2 3 4
22. 就きたい職業に必要な資格・免許・技術などについて調べる.....1 2 3 4
23. 興味ある組織では、どのような材を必要としているのかを調べる.....1 2 3 4
24. 関心のある職業に就いている人から仕事について話を聴く.....1 2 3 4

25. 現在の中国の求人動向を把握する.....1 2 3 4

Ⅱ、あなたは以下の項目に対して、どのくらい当てはまると思いますか。

①「全く当てはまる」②「あまり当てはまる」③「少し当てはまる」④「非常によく当てはまる」
のうち最も近いと思う数字ひとつに○をつけてください。

1. 仕事についていろいろと勉強すれば、よりよい職業選択が出来るだろう.....1 2 3 4
2. 自分の興味や能力を理解すれば、よりよい職業選択ができるだろう.....1 2 3 4
3. 仕事でどのような知識や技術が必要となるか分かっているれば、よりよい
職業選択できるだろう.....1 2 3 4
4. じっくり時間をかけて職業情報の収集を行えば、よりよい職業選択に何か必要な
のか分かるだろう.....1 2 3 4

Ⅲ、以下の 45 項目の職業内容に対して、あなたの興味の程度をお尋ねします。

①「まったく興味がない」②「あまり興味がない」③「少し興味がある」④「非常に興味がある」
のうち最も近いと思う数字ひとつに○をつけてください。

1. 民間企業での事務処理や書類の作成.....1 2 3 4
2. 家具や照明器具のデザインや室内装飾.....1 2 3 4
3. 国際会議で演説などを即座に通訳する.....1 2 3 4
4. 事件を取材したり、報道記事を書く.....1 2 3 4
5. 法律に関する書類を作成する.....1 2 3 4
6. 外国の小説、文献などを中国語に訳す.....1 2 3 4
7. 保険を勧誘したり、集金する.....1 2 3 4
8. 雑誌や本を企画し、編集する.....1 2 3 4
9. 図書の目録を作ったり、書架を整理する.....1 2 3 4
10. 洋服をデザインしたり、仕立てる.....1 2 3 4
11. 中学・高校で専門の教科を教える.....1 2 3 4
12. 文学作品を書く.....1 2 3 4
13. 車を点検したり、修理する.....1 2 3 4
14. 専門分野の研究をしたり、専門的知識を教える.....1 2 3 4
15. 芸術的な絵を描く.....1 2 3 4
16. 市役所・区役所などの事務処理.....1 2 3 4
17. 旅行社で旅行を企画し、実施する.....1 2 3 4

18.	施設の子供達の世話をする.....	1	2	3	4
19.	社会事象について評論を書く.....	1	2	3	4
20.	電気製品の修理や配線の仕事.....	1	2	3	4
21.	海外からの旅行客を観光案内する.....	1	2	3	4
22.	店でCDブランド服を紹介する.....	1	2	3	4
23.	商店や会社の税金に関する書類を作成したり、税務上の相談に応じる.....	1	2	3	4
24.	商品を仕入れたり、買い付ける.....	1	2	3	4
25.	テレビのニュース番組を担当する.....	1	2	3	4
26.	銀行での預金や貸付業務.....	1	2	3	4
27.	小さい子どものお世話をしたり、教育を行う.....	1	2	3	4
28.	商業写真を撮る.....	1	2	3	4
29.	ラジオやレコード音楽を紹介しながら話をする.....	1	2	3	4
30.	悩みごとの相談に応じたり、指導する.....	1	2	3	4
31.	コンピュータのプログラムを作る.....	1	2	3	4
32.	商品の色や形をデザインする.....	1	2	3	4
33.	海外旅行に同行し、旅行客の世話をする.....	1	2	3	4
34.	ラジオ、テレビ番組で、ニュースを読んだり、司会をする.....	1	2	3	4
35.	自動車を販売する.....	1	2	3	4
36.	外国人に中国語を教える.....	1	2	3	4
37.	商店や会社の会計書類を作成したり、会計上の相談に応じる.....	1	2	3	4
38.	演劇や映画などの脚本を書く.....	1	2	3	4
39.	工場で機械を操作したり、製品をつくる.....	1	2	3	4
40.	海外取り引きや金融の仕事.....	1	2	3	4
41.	広告のための絵や文字をデザインする.....	1	2	3	4
42.	コンピューターによる情報システムの設計.....	1	2	3	4
43.	観光地で名所、旧跡などを案内する.....	1	2	3	4
44.	外国人管理職の秘書業務.....	1	2	3	4
45.	国際線の機内で旅客を接待する.....	1	2	3	4

Ⅳ、以下のそれぞれの項目に対して、自分がつきたいと望んでいる職業には、それがどの程度そなわっていて欲しいですか？「①普通以下でよい」「②あまりあってもなくてもいい」「③どちらともいえない」「④少しあってほしい」「⑤非常にたくさんあってほしい」のうち自分に合うものを1つ選らんで○で囲んでください。

- | | | | | | |
|--------------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. みんなから、慕われ尊敬されること..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 高い給与やボーナスをうる機会..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 自己の創造力や独創性が、十分発揮できること..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 親切で、思いやりのある人間関係を作り上げる機会..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 勤め先が安定していて、世間で評判がよいこと..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 困難な仕事へ挑戦したり、責任ある仕事がまかされる機会..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. 仕事を通じ、自分自身が学び成長すること..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 勤務時間が短く、休日が多いこと..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 国際的な交流や、取引に関する仕事をする機会..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 人々の間に、お互いに教え・教えられ関係を発展させること..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. 勤務先への通勤が便利であること..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. 最先端の技術や情報に接し、それらを実用化すること..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13. みんなから信頼され、頼りにされること..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14. 職場の環境が快適で、厚生施設が充実していること..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15. 専門的知識を深め、それを通じて他の人々を援助すること..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

Ⅴ、次の質問項目を教えてください：

1、父親の学歴と職業：

学歴：() ①義務教育終了

() ②高校卒

() ③高専卒

() ④大学卒

職業：() ① 公務員

() ② 会社勤務

() ③ 専門的職業

() ④ 自営業

() ⑤ その他

2、母親の学歴と職業：

学歴：() ①義務教育終了

() ②高校卒

() ③高専卒

() ④大学卒

職業：() ① 公務員

() ② 会社勤務

() ③ 専門的職業

() ④ 自営業

() ⑤ その他

关于大学生职业选择意识的问卷调查

本问卷调查以了解大学生的职业选择意识为目的,调查形式为无记名方式。调查数据仅用于研究目的和毕业论文的做成,决对不泄漏个人隐私。

关于本问卷调查,如有疑问点的话,请按以下方式联系。

谢谢各位的协力。

2 0 0 6 年 10 月

郑丽芳(学校教育专业)

E-mail : zm9926@yahoo.com.cn

性别 (男 女)

年龄 (岁)

系 / 分院 ()

年级 (一年 二年 三年 四年 其他)

一. 请问对以下所列举的各项目, 你有多大程度的自信。

请在「①完全没自信」到「④非常有自信」的各选项之间选择一个最接近自己状况的数字画圈。

	完全没有自信	不太有自信	有一点自信	非常有自信
	1	2	3	4
1. 一旦决定了将来希望从事何种职业之后, 对选择职业将不再烦恼.....	1	2	3	4
2. 在职业生活方面明确的知道应该重视什么.....	1	2	3	4
3. 确立自己最适合的职业领域.....	1	2	3	4
4. 选择最符合自己兴趣的职业.....	1	2	3	4
5. 决定自己主要是从事与人接触的职业,还是从事与情报,事物等相关的职业.....	1	2	3	4
6. 为了从事自己希望的职业,即使遇到挫折与困难也能坚持继续努力.....	1	2	3	4
7. 当希望从事的职业的面试和考试测验不能顺利进行时,能够再度挑战.....	1	2	3	4
8. 当父母和友人反对你从事自己喜欢的职业时,能够说服他们并取得理解.....	1	2	3	4
9. 能够花费较长的时间和精力去掌握对将来的职业有用的知识和技术.....	1	2	3	4
10. 为了从事喜欢的工作,不论地域和远近,任何地方都能去.....	1	2	3	4
11. 为了将来的职业,对于在学生期间应该完成的事情制定计划.....	1	2	3	4
12. 制定计划取得对于将来的工作有用的资格证书.....	1	2	3	4
13. 明确人生目标,并按照此制定职业计划.....	1	2	3	4
14. 面向自己希望实现的职业,制定周密的就业活动计划.....	1	2	3	4
15. 无法实现职业计划时,灵活的修正计划.....	1	2	3	4
16. 明确将来自己想度过何种人生.....	1	2	3	4
17. 了解自己适合那种职业领域.....	1	2	3	4
18. 正确判断自己的性格和兴趣.....	1	2	3	4
19. 正确把握自己的适应性和能力.....	1	2	3	4
20. 把自己将来的目标和迄今为止的经验联系起来考虑.....	1	2	3	4
21. 利用报纸,杂志,电视,网络等渠道收集职业情报.....	1	2	3	4
22. 查清自己想从事的职业必须掌握何种技术和持有何种资格.....	1	2	3	4
23. 调查自己有兴趣的组织部门需要何种人才.....	1	2	3	4
24. 从正在从事自己有兴趣的职业的人那里听取与工作相关的信息.....	1	2	3	4

25. 掌握国内现在的人才招聘动向.....1 2 3 4

二. 请问对以下所列举的各项目, 你认为有多大程度的恰当。

请在「①完全不恰当」到「④非常恰当」的各选项之间选择一个自己认为最合适的数字画圈。

完全不恰当	不太恰当	有一点恰当	非常恰当
1	2	3	4

1. 只要在工作方面多进行各种学习,就能作出更好的职业选择。.....1 2 3 4
2. 如果能够充分地了解自己的兴趣和能力, 就能作出更好的职业选择.....1 2 3 4
3. 如果充分了解在工作方面哪些是必要的知识,技术等的话, 就能作出更好的职业选择.....1 2 3 4
4. 如果踏踏实实地进行职业情报的收集,就能够知道作出更好的职业选择需要什么.....1 2 3 4

三. 请问对从事与以下所列举内容相关的工作, 你有多大程度的兴趣。

请在「①完全没有兴趣」到「④非常有兴趣」的各选项之间选择一个最接近自己状况的数字画圈。

完全没有兴趣	不太有兴趣	有一点兴趣	非常有兴趣
1	2	3	4

1. 在企业从事各种书类文件的处理,作成的相关工作.....1 2 3 4
2. 从事家具,照明器具等的室内装璜设计.....1 2 3 4
3. 在国际会议上对各类演说活动等进行同声翻译.....1 2 3 4
4. 对各类社会新闻事件进行采访, 撰稿报道.....1 2 3 4
5. 协助处理, 作成各类与法律相关的书类文件.....1 2 3 4
6. 将外国小说, 文献等笔译成中文.....1 2 3 4
7. 代理各种保险业务.....1 2 3 4
8. 企画编辑, 各类书刊杂志.....1 2 3 4
9. 图书馆各类藏书目录的做成, 整理.....1 2 3 4
10. 服装设计, 裁剪.....1 2 3 4
11. 小学、中学的任课老师.....1 2 3 4
12. 撰写文学作品.....1 2 3 4
13. 各类机动车的修理, 维护.....1 2 3 4
14. 从事相关专业知识和研究的教学活动.....1 2 3 4
15. 从事职业艺术绘画工作.....1 2 3 4
16. 在市、区级政府从事文书事务工作.....1 2 3 4

17. 在旅行社进行新企划案的开发, 实施.....	1	2	3	4
18. 在社会福利机关从事照顾, 帮助儿童的工作.....	1	2	3	4
19. 对各类社会新闻事件进行解说, 撰写评论.....	1	2	3	4
20. 从事各类电器产品的修理, 配置线路工作.....	1	2	3	4
21. 为海外游客做观光导游, 解说工作.....	1	2	3	4
22. 在大型商场做世界名牌服饰产品的代理宣传工作.....	1	2	3	4
23. 熟悉税务制度, 为企业节税提供合适的建议.....	1	2	3	4
24. 商品的批发买卖.....	1	2	3	4
25. 电视新闻节目的主持人.....	1	2	3	4
26. 在银行从事金融储蓄, 借贷业务.....	1	2	3	4
27. 在幼儿园等从事儿童的保育, 教育工作.....	1	2	3	4
28. 拍摄商业宣传照片.....	1	2	3	4
29. 做广播电台的音乐节目主播, 介绍各种音乐.....	1	2	3	4
30. 从事心理辅导, 缓解他人心理压力的工作.....	1	2	3	4
31. 编制电脑应用程序软件.....	1	2	3	4
32. 各种商业产品的造型设计.....	1	2	3	4
33. 海外旅行的陪同导游.....	1	2	3	4
34. 在广播电台或电视台作新闻节目的主持, 解说.....	1	2	3	4
35. 机动车的介绍促销, 贩卖.....	1	2	3	4
36. 教外国人中文.....	1	2	3	4
37. 熟悉会计制度, 负责企业总账工作.....	1	2	3	4
38. 撰写影视剧的剧本.....	1	2	3	4
39. 在生产现场操作机器, 制造产品.....	1	2	3	4
40. 海外金融业务.....	1	2	3	4
41. 设计平面广告的图片, 文字.....	1	2	3	4
42. 电脑系统工程师.....	1	2	3	4
43. 在国内旅游观光地做为游客介绍, 解说风景名胜.....	1	2	3	4
44. 外企管理人员的秘书.....	1	2	3	4
45. 在国际航线作服务工作.....	1	2	3	4

四. 请问对于将来想从事的工作, 在以下列举的各种条件中你希望具备到何种程度。

请在「①完全不具备也可」到「⑤希望非常具备」的各选项之间, 选择一个最接近自己状况的数字画圈。

	完全不具备也可	不太具备也可	无法确定	稍微具备一些	希望非常具备
	1	2	3	4	5
1. 能被大家尊重和羡慕.....	1	2	3	4	5
2. 高薪.....	1	2	3	4	5
3. 能够充分发挥自己的创造力和独创性.....	1	2	3	4	5
4. 在工作环境中, 有创造亲切友好人际关系的机会.....	1	2	3	4	5
5. 企业形象好, 工作安定.....	1	2	3	4	5
6. 能让自己肩负责任挑战有难度的工作.....	1	2	3	4	5
7. 通过工作, 自身能得到学习与成长.....	1	2	3	4	5
8. 工作时间短, 休息日多.....	1	2	3	4	5
9. 有从事国际贸易、国际交流的机会.....	1	2	3	4	5
10. 同事之间, 有相互学习的机会.....	1	2	3	4	5
11. 工作单位交通便利.....	1	2	3	4	5
12. 能够接触最先端的技术或情报, 并能将其实用化.....	1	2	3	4	5
13. 在工作中得到大家的信赖、认可.....	1	2	3	4	5
14. 工作环境舒适, 福利待遇优厚.....	1	2	3	4	5
15. 可深入加强专业知识, 并通过它援助他人.....	1	2	3	4	5

五. 请在符合自己情况的选项前划圈。

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 父亲的学历 () 1. 义务教育修了 | 父亲的职业 () 1. 公务员 |
| () 2. 高中毕业 | () 2. 公司职员 |
| () 3. 专科毕业 | () 3. 有专业技术的职业 |
| () 4. 大学本科毕业 | () 4. 私有企业主 |
| | () 5. 其他 |
| 2. 母亲的学历 () 1. 义务教育修了 | 母亲的职业 () 1. 公务员 |
| () 2. 高中毕业 | () 2. 公司职员 |
| () 3. 专科毕业 | () 3. 有专业技术的职业 |
| () 4. 大学本科毕业 | () 4. 私有企业主 |
| | () 5. 其他 |